

4. 対象事業実施区域及びその周囲の概況

4. 対象事業実施区域及びその周囲の概況

4.1 自然的状況

4.1.1 気象の状況

福井地方気象台(位置は図 4.1-3参照)における気象の状況(10年平均値:平成22年~令和元年)は、表 4.1-1及び図 4.1-1に示すとおりである。

年平均気温は15.0℃で、日最高平均気温の最高が8月の32.8℃、日最低平均気温の最低が1月の0.2℃となっている。

年間降水量は2,438.5mmで、12月が345.6mmと最も多く、6月が131.4mmと最も少ない。

年平均風速は2.8m/秒で、春(3~5月)に3.0~3.2m/秒と強く、他の月は2.5~2.7m/秒となっている。年間最多風向は、南南東となっている。

令和元年の風の状況は図 4.1-2に示すとおりであり、年平均風速は2.7m/秒となっている。また、南系の風が卓越しており、次いで北系の風が多い。

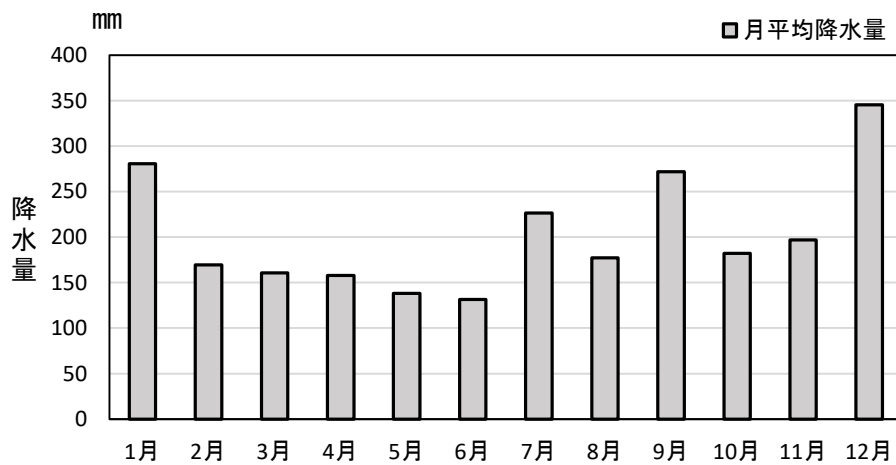
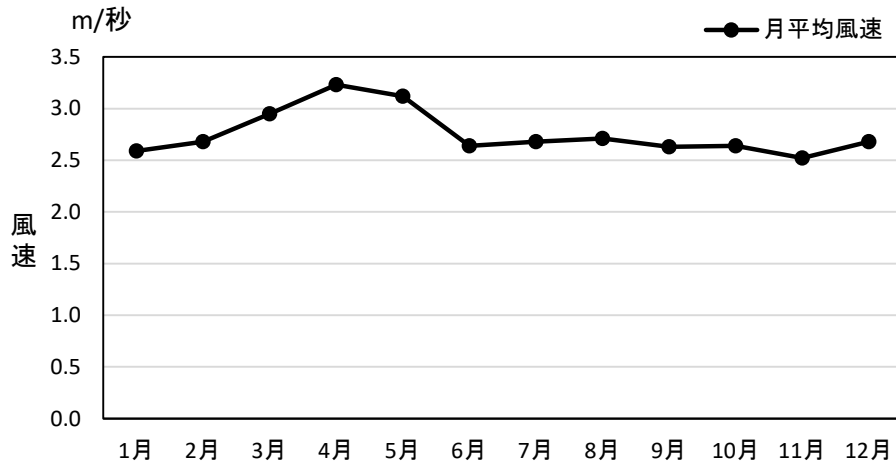
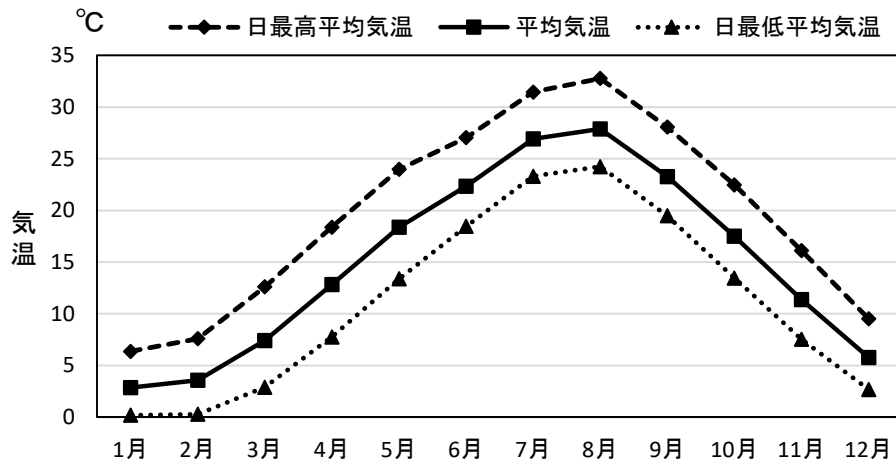
表 4.1-1 気象の状況

項目		月												年
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
気 温 (℃)	平均	2.9	3.6	7.4	12.8	18.4	22.3	26.9	27.9	23.3	17.5	11.4	5.8	15.0
	日最高平均	6.4	7.6	12.6	18.4	24.0	27.1	31.5	32.8	28.1	22.5	16.1	9.5	19.7
	日最低平均	0.2	0.3	2.9	7.8	13.4	18.5	23.3	24.2	19.5	13.5	7.5	2.7	11.1
平均降水量(mm)		280.9	169.6	160.7	157.7	138.1	131.4	226.4	177.2	271.8	182.1	197.1	345.6	2,438.5
平均風速(m/秒)		2.6	2.7	3.0	3.2	3.1	2.6	2.7	2.7	2.6	2.6	2.5	2.7	2.8
最多風向		西南西	西南西	西南西	南南東	南南東	南南東	南	南	南南東	南南東	南南東	西南西	南南東

注:値は福井地方気象台における平成22年~令和元年の10年間の平均値(風向は最多出現風向)。

なお、降水量の年の値については、年間の降水量の合計の平均値。

出典:「過去の気象データ・ダウンロード」(気象庁ホームページ)をもとに作成



注：値は福井地方気象台における平成22年～令和元年の10年間の平均値
 出典：「過去の気象データ・ダウンロード」(気象庁ホームページ)

図 4.1-1 気象の状況

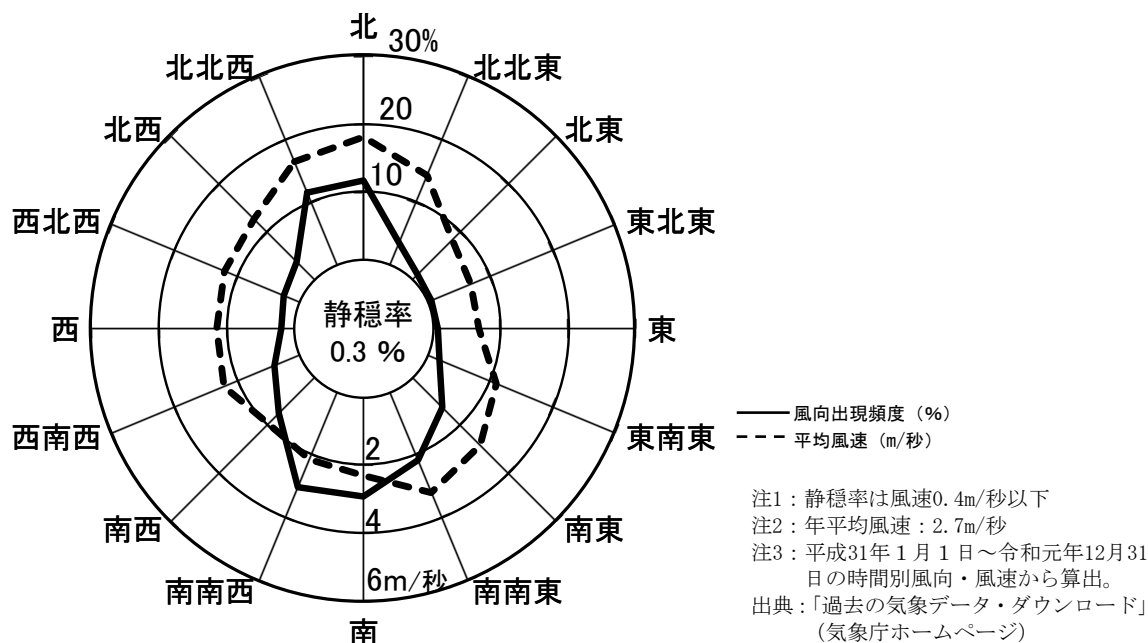


図 4.1-2 風況の状況 (福井地方気象台：令和元年)

4.1.2 大気環境の状況

(1) 大気質の状況

1) 大気汚染常時監視測定局の位置及び測定項目

対象事業実施区域及びその周囲の大気汚染常時監視測定局の位置は図 4.1-3に、平成30年度の各測定局における測定項目は、表 4.1-2に示すとおりである。

最寄りの測定局は吉野測定局であり、対象事業実施区域から南東約1.0kmの距離に位置している。

表 4.1-2 対象事業実施区域及びその周囲における大気汚染常時監視測定局及び測定項目

種別 ^{注2}	番号 ^{注1}	所在市町	測定局	用途地域 ^{注3}	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	微小粒子状物質	一酸化炭素	光化学オキシダント	非メタン炭化水素	塩化水素	有害大気汚染物質	ダイオキシン類
一般局	1	福井市	福井	住	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	2		センター	未		○	○			○		○	○	
自排局	3	福井市	自排福井	未		○	○	○	○		○			
クリーンセンター監視局	4	福井市	岡保	未	○	○	○					○		○
	5	永平寺町	吉野	未	○	○	○					○		
	6		松岡	未	○	○	○					○		

注1：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

注2：次のとおり省略。

一般局：一般環境大気測定局 自排局：自動車排出ガス測定局 クリーンセンター監視局：福井市クリーンセンター監視局

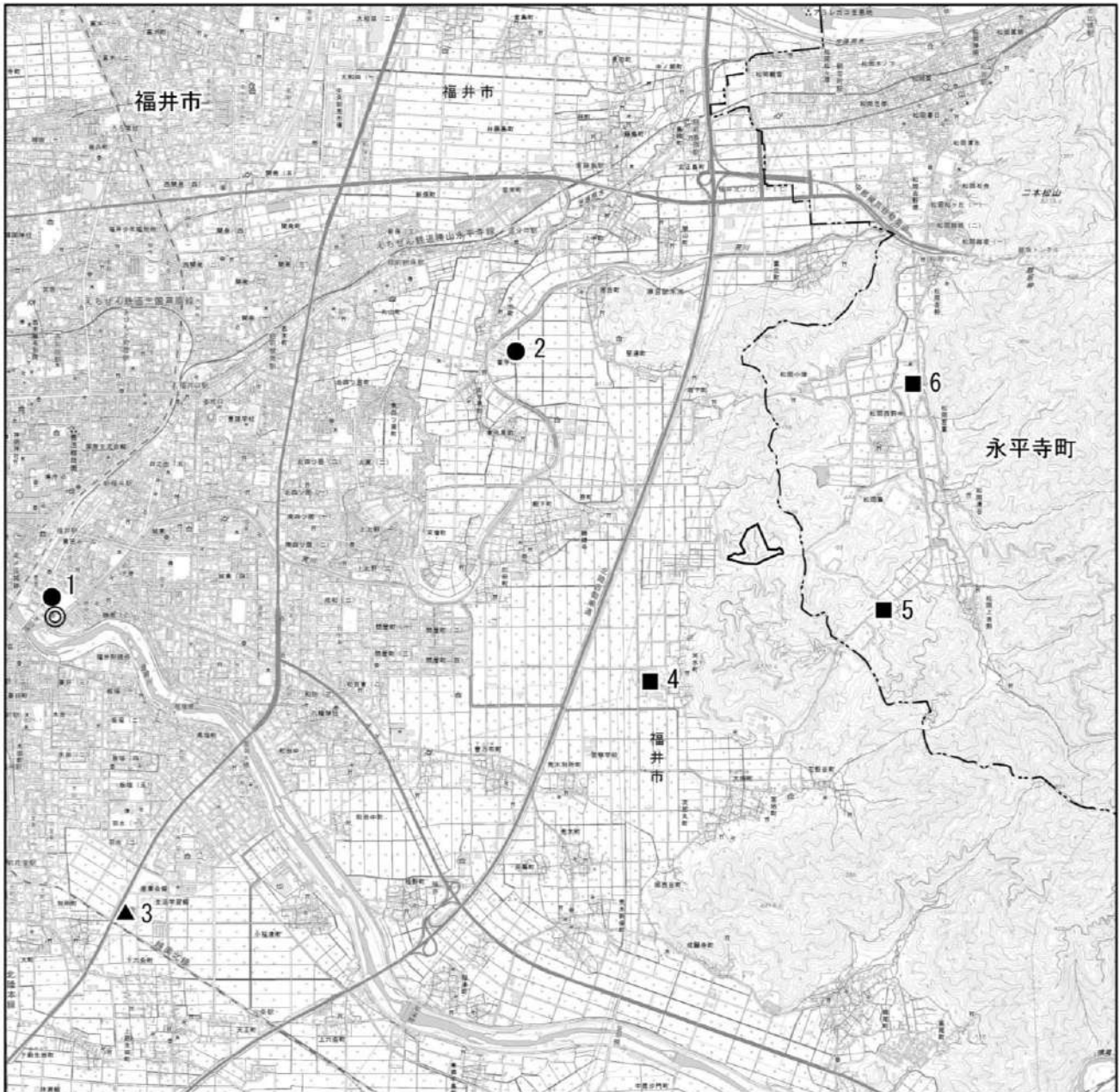
注3：住：第1種住居地域

未：未指定地域及び無指定地域

出典1：「福井県大気汚染情報」(福井県ホームページ)

出典2：「平成30年度ダイオキシン類調査結果について」(福井県ホームページ)

出典3：「ふくいの環境(令和元年度版)」(福井市ホームページ)



凡 例

- 対象事業実施区域
- 市町界
- ◎ 福井地方気象台
- 一般環境大気測定局
- ▲ 自動車排出ガス測定局
- 福井市クリーンセンター監視局

この地図は国土地理院発行の1:25,000地形図「越前森田」「丸岡」「福井」「永平寺」を使用し、1:50,000の縮尺に編集したものである。

出典1:「過去の気象データ・ダウンロード」(気象庁ホームページ)
 出典2:「ふくい環境(令和元年度版)」(福井市ホームページ)

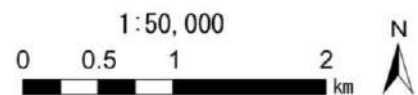


図 4.1-3 気象観測所及び大気汚染常時監視測定局位置図

2) 二酸化硫黄

二酸化硫黄は、一般局1局、クリーンセンター監視局3局で測定されている。

平成30年度の測定結果は表 4.1-3に示すとおりであり、各測定局の年平均値は0.001～0.002ppmの範囲にある。また、測定結果は、短期的評価、長期的評価ともにすべての測定局で環境基準を達成している。

平成26～30年度の年平均値の経年変化は表 4.1-4及び図 4.1-4に示すとおりであり、各局とも横ばい傾向である。

表 4.1-3 二酸化硫黄の測定結果（平成30年度）

種別	所在市町	番号 ^{注1}	測定局	年平均値	短期的評価 ^{注2}			長期的評価 ^{注2}		
					1時間値が0.1ppmを超えた時間数	1日平均値が0.04ppmを超えた日数	環境基準達成状況 ^{注3}	1日平均値の2%除外値	1日平均値が0.04ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準達成状況 ^{注3}
					(ppm)	(時間)	(日)	(ppm)	(有・無)	
一般局	福井市	1	福井	0.001	0	0	○	0.002	無	○
クリーンセンター監視局	福井市	4	岡保	0.001	0	0	○	0.004	無	○
	永平寺町	5	吉野	0.002	0	0	○	0.004	無	○
		6	松岡	0.002	0	0	○	0.006	無	○

注1：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

注2：環境基準の達成状況の評価：

・短期的評価：1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。

・長期的評価：1年間の1日平均値の2%除外値が0.04ppm以下であること。ただし、1日平均値が0.04ppmを超える日が2日以上連続しないこと。

注3：表中の「環境基準達成状況」の欄で、○：達成 ×：非達成 を示す。

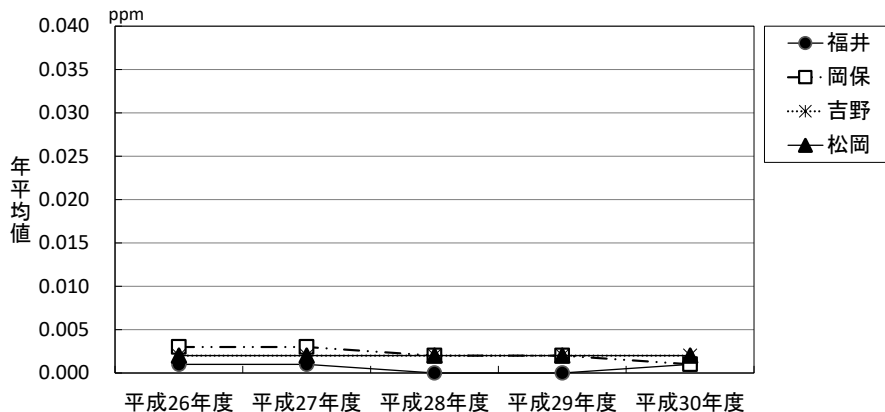
出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

表 4.1-4 二酸化硫黄の経年変化（平成26～30年度）

種別	所在市町	番号 ^注	測定局	年平均値 (ppm)				
				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一般局	福井市	1	福井	0.001	0.001	0.000	0.000	0.001
クリーンセンター監視局	福井市	4	岡保	0.003	0.003	0.002	0.002	0.001
	永平寺町	5	吉野	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002
		6	松岡	0.002	0.002	0.002	0.002	0.002

注：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）



出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

図 4.1-4 二酸化硫黄の経年変化（平成26～30年度）

3) 二酸化窒素

二酸化窒素は、一般局2局、自排局1局、クリーンセンター監視局3局で測定されている。

平成30年度の測定結果は表 4.1-5に示すとおりであり、各測定局の年平均値は一般局では0.006ppm、自排局では0.014ppm、クリーンセンター監視局では0.002~0.004ppmの範囲にある。また、測定結果は、長期的評価についてすべての測定局で環境基準を達成している。

平成26~30年度の年平均値の経年変化は表 4.1-6及び図 4.1-5に示すとおりであり、概ね減少傾向である。

表 4.1-5 二酸化窒素の測定結果（平成30年度）

種別	所在市町	番号 ^{注1}	測定局	年平均値 (ppm)	1日平均値が 0.06ppmを 超えた日数 (日)	1日平均値が 0.04ppm以上 0.06ppm以下 の日数 (日)	1時間 値の 最高値 (ppm)	長期的評価 ^{注2}	
								1日平均 値の年間 98%値 (ppm)	環境 基準 達成 状況 ^{注3}
一般局	福井市	1	福井	0.006	0	0	0.035	0.014	○
		2	センター	0.006	0	0	0.031	0.013	○
自排局	福井市	3	自排福井	0.014	0	0	0.066	0.027	○
クリーン センター 監視局	福井市	4	岡保	0.004	0	0	0.039	0.010	○
	永平	5	吉野	0.002	0	0	0.019	0.005	○
	寺町	6	松岡	0.002	0	0	0.021	0.005	○

注1：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

注2：環境基準の達成状況の評価：1日平均値の年間98%値が0.06ppm以下であること。

注3：表中の「環境基準達成状況」の欄で、○：達成 ×：非達成 を示す。

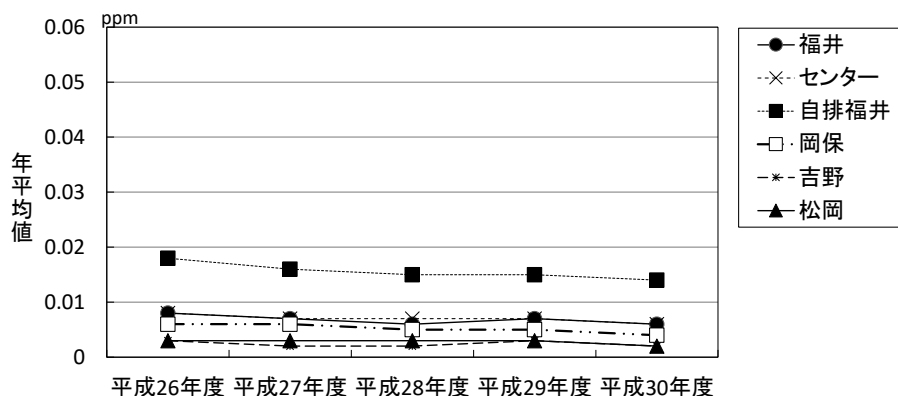
出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

表 4.1-6 二酸化窒素の経年変化（平成26~30年度）

種別	所在市町	番号 ^注	測定局	年平均値(ppm)				
				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一般局	福井市	1	福井	0.008	0.007	0.006	0.007	0.006
		2	センター	0.008	0.007	0.007	0.007	0.006
自排局	福井市	3	自排福井	0.018	0.016	0.015	0.015	0.014
クリーンセンター 監視局	福井市	4	岡保	0.006	0.006	0.005	0.005	0.004
	永平寺町	5	吉野	0.003	0.002	0.002	0.003	0.002
		6	松岡	0.003	0.003	0.003	0.003	0.002

注：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）



出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

図 4.1-5 二酸化窒素の経年変化（平成26~30年度）

4) 浮遊粒子状物質

浮遊粒子状物質は、一般局2局、自排局1局、クリーンセンター監視局3局で測定されている。

平成30年度の測定結果は表 4.1-7に示すとおりであり、各測定局の年平均値は一般局では0.017 mg/m³、自排局では0.015 mg/m³、クリーンセンター監視局では0.012～0.016 mg/m³の範囲にある。また、測定結果は、短期的評価、長期的評価ともすべての測定局で環境基準を達成している。

平成26～30年度の年平均値の経年変化は表 4.1-8及び図 4.1-6に示すとおりであり、概ね減少傾向である。

表 4.1-7 浮遊粒子状物質の測定結果（平成30年度）

種別	所在市町	番号 ^{注1}	測定局	年平均値 (mg/m ³)	短期的評価 ^{注2}			長期的評価 ^{注2}		
					1時間値が 0.20mg/m ³ を超えた 時間数合 (日)	1日平均値 が0.10mg/m ³ を超えた 日数 (日)	環境 基準 達成 状況 ^{注3}	1日平均値 の2%除 外 値 (mg/m ³)	1日平均値が 0.10mg/m ³ を超えた日 が2日以上連続 したことの有無 (有・無)	環境 基準 達成 状況 ^{注3}
一般局	福井市	1	福井	0.017	0	0	○	0.040	無	○
		2	センター	0.017	0	0	○	0.042	無	○
自排局	福井市	3	自排福井	0.015	0	0	○	0.038	無	○
クリーンセンター 監視局	福井市	4	岡保	0.016	0	0	○	0.042	無	○
		5	吉野	0.012	0	0	○	0.030	無	○
		6	松岡	0.012	0	0	○	0.033	無	○

注1：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

注2：環境基準の達成状況の評価：

- ・短期的評価：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下であること。
- ・長期的評価：1年間の1日平均値の2%除外値が0.10mg/m³以下であること。ただし、1日平均値が0.10mg/m³を超える日が2日以上連続しないこと。

注3：表中の「環境基準達成状況」の欄で、○：達成 ×：非達成 を示す。

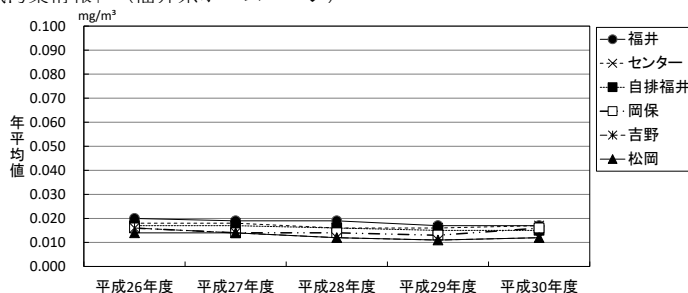
出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

表 4.1-8 浮遊粒子状物質の経年変化（平成26～30年度）

種別	所在市町	番号 ^注	測定局	年平均値(mg/m ³)				
				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一般局	福井市	1	福井	0.020	0.019	0.019	0.017	0.017
		2	センター	0.018	0.018	0.016	0.016	0.017
自排局	福井市	3	自排福井	0.017	0.017	0.016	0.015	0.015
クリーンセンター 監視局	福井市	4	岡保	0.016	0.014	0.014	0.013	0.016
		5	吉野	0.016	0.014	0.012	0.011	0.012
		6	松岡	0.014	0.014	0.012	0.011	0.012

注：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）



出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

図 4.1-6 浮遊粒子状物質の経年変化（平成26～30年度）

5) 微小粒子状物質

微小粒子状物質は、一般局1局、自排局1局で測定されている。

平成30年度の測定結果は表 4.1-9に示すとおりであり、年平均値は一般局では10.0 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 、自排局では14.8 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ となっている。また、測定結果は、短期的基準、長期的基準とも両測定局で環境基準を達成している。

平成26～30年度の年平均値の経年変化は表 4.1-10及び図 4.1-7に示すとおりであり、一般局では減少傾向であるが、自排局では横ばい傾向である。

表 4.1-9 微小粒子状物質の測定結果（平成30年度）

種別	所在市町	番号 ^{注1}	測定局	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	短期基準 ^{注2}			長期基準 ^{注2}	
					1日平均値 の年間98パー セントイル ル値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1日平均 値が35 μ g/ m^3 を 超 えた日数 (日)	環境 基準 達成 状況 ^{注3}	年平均値 ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	環境 基準 達成 状況 ^{注3}
一般局	福井市	1	福井	10.0	25.6	0	○	10.0	○
自排局	福井市	3	自排福井	14.8	34.6	7	○	14.8	○

注1：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

注2：環境基準の達成状況の評価：

- ・短期基準：1日平均値の年間98パーセントイル値が35 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。
- ・長期基準：1年平均値が15 $\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること。

注3：表中の「環境基準達成状況」の欄で、○：達成 ×：非達成 を示す。

環境基準との比較は、標準測定法との等価性を有する自動測定器で測定され、かつ、有効測定日数が250日以上の測定局で行う。なお、2測定局とも等価性を有している。

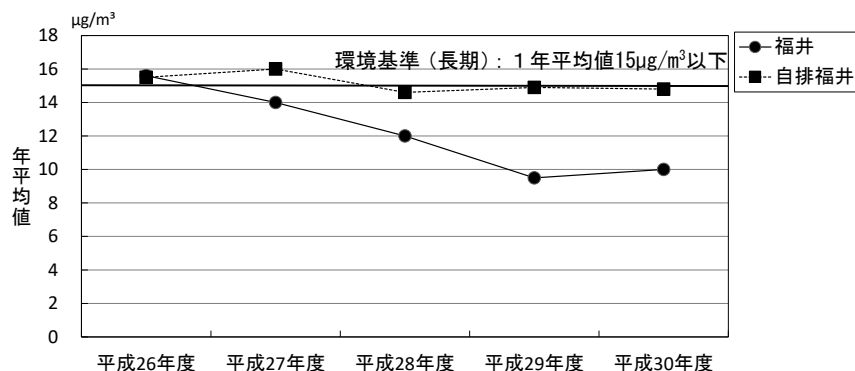
出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

表 4.1-10 微小粒子状物質の経年変化（平成26～30年度）

種別	所在市町	番号 ^注	測定局	年平均値($\mu\text{g}/\text{m}^3$)				
				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一般局	福井市	1	福井	15.6	14.0	12.0	9.5	10.0
自排局	福井市	3	自排福井	15.5	16.0	14.6	14.9	14.8

注：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）



出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

図 4.1-7 微小粒子状物質の経年変化（平成26～30年度）

6) 一酸化炭素

一酸化炭素は、自排局1局で測定されている。

平成30年度の測定結果は表 4.1-11に示すとおりであり、年平均値は0.3ppmとなっている。また、測定結果は、短期的評価、長期的評価とも環境基準を達成している。

平成26～30年度の年平均値の経年変化は表 4.1-12及び図 4.1-8に示すとおりであり、横ばい傾向である。

表 4.1-11 一酸化炭素の測定結果（平成30年度）

種別	所在市町	番号 ^{注1}	測定局	年平均値	短期的評価 ^{注2}			長期的評価 ^{注2}		
					8時間値が20ppmを超えた回数	1日平均値が10ppmを超えた日数	環境基準達成状況 ^{注3}	1日平均値の2%除外値	1日平均値が10ppmを超えた日が2日以上連続したことの有無	環境基準達成状況 ^{注3}
					(ppm)	(回)		(日)	(ppm)	
自排局	福井市	3	自排福井	0.3	0	0	○	0.4	無	○

注1：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

注2：環境基準の達成状況の評価：

- ・短期的評価：1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値が20ppm以下であること。
- ・長期的評価：1年間の1日平均値の2%除外値が10ppm以下であること。ただし、1日平均値が10ppmを超える日が2日以上連続しないこと。

注3：表中の「環境基準達成状況」の欄で、○：達成 ×：非達成 を示す。

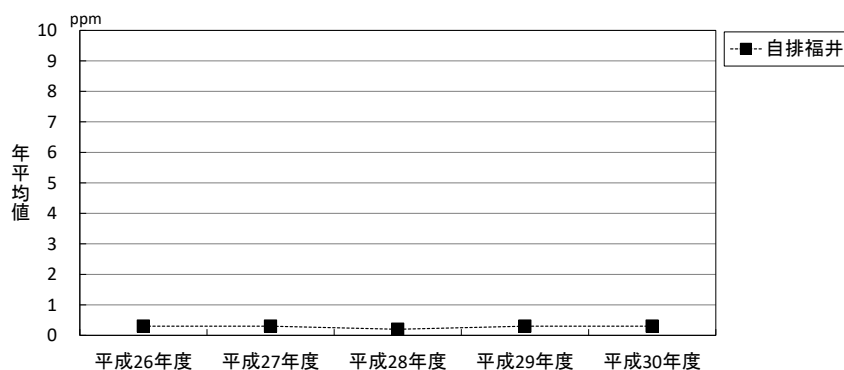
出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

表 4.1-12 一酸化炭素の経年変化（平成26～30年度）

種別	所在市町	番号 ^注	測定局	年平均値 (ppm)				
				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
自排局	福井市	3	自排福井	0.3	0.3	0.2	0.3	0.3

注：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）



出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

図 4.1-8 一酸化炭素の経年変化（平成26～30年度）

7) 光化学オキシダント

光化学オキシダントは、一般局2局で測定されている。

平成30年度の測定結果は表 4.1-13に示すとおりであり、年平均値は福井局では0.034ppm、センター局では0.032ppmとなっている。また、測定結果は、両測定局とも短期的評価では環境基準を達成していない。

平成26～30年度の年平均値の経年変化は表 4.1-14及び図 4.1-9に示すとおりであり、両測定局ともほぼ横ばい傾向である。

なお、光化学オキシダントについて、当該地域の特性ではなく全国的に環境基準の達成状況が低い傾向となっている。

表 4.1-13 光化学オキシダントの測定結果（平成30年度）

種別	所在市町	番号 ^{注1}	測定局	昼間の1時間値の年平均値	短期的評価 ^{注2}			昼間の1時間値が0.12ppm以上となった時間数及び日数		昼間の1時間値の最高値
					昼間の1時間値が0.06ppmを超えた時間数及び日数		環境基準達成状況 ^{注3}	(時間)	(日)	
				(時間)	(日)	(時間)				(日)
一般局	福井	1	福井	0.034	282	47	×	0	0	0.084
		2	センター	0.032	277	45	×	0	0	0.085

注1：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

注2：環境基準の達成状況の評価：昼間(5～20時)の時間帯において、1時間値が0.06ppm以下であること。

注3：表中の「環境基準達成状況」の欄で、○：達成 ×：非達成を示す。

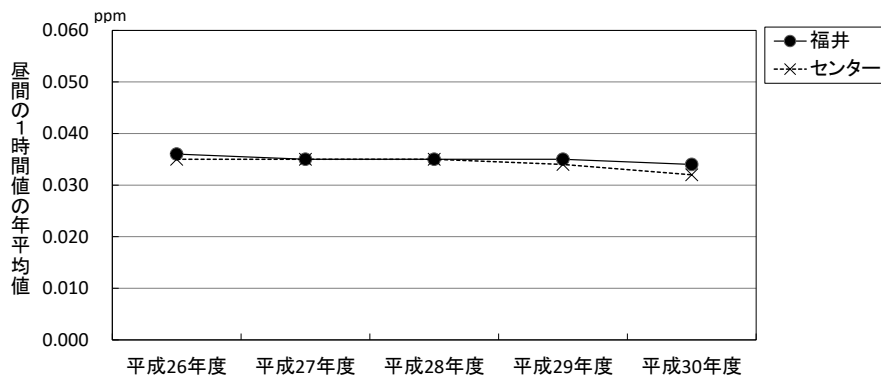
出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

表 4.1-14 光化学オキシダントの経年変化（平成26～30年度）

種別	所在市町	番号 ^注	測定局	昼間の1時間値の年平均値(ppm)				
				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一般局	福井市	1	福井	0.036	0.035	0.035	0.035	0.034
		2	センター	0.035	0.035	0.035	0.034	0.032

注：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）



出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

図 4.1-9 光化学オキシダントの経年変化（平成26～30年度）

8) 非メタン炭化水素

非メタン炭化水素は、一般局1局、自排局1局で測定されている。

平成30年度の測定結果は表 4.1-15に示すとおりであり、年平均値は福井局では0.07ppmC、自排局では0.08ppmCとなっている。また、測定結果は、指針との比較では両測定局ともに指針を上回っている。

平成26～30年度の年平均値の経年変化は表 4.1-16及び図 4.1-10に示すとおりであり、両測定局ともほぼ横ばい傾向である。

表 4.1-15 非メタン炭化水素の測定結果（平成30年度）

種別	所在市町	番号 ^{注1}	測定局	年平均値	午前6～9時 における 年平均値	午前6～9時 3時間平均値 が0.20ppmCを 超えた日数	午前6～9時 3時間平均値 が0.31ppmCを 超えた日数	指針 との 比較 ^{注2,3}
				(ppmC)	(ppmC)	(日)	(日)	
一般局	福井市	1	福井	0.07	0.09	13	0	×
自排局	福井市	3	自排福井	0.08	0.10	16	1	×

注1：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

注2：表中の「指針との比較」の欄で、○：達成 ×：非達成 を示す。

指針は、「光化学オキシダント生成防止のための大気中炭化水素濃度の指針」（昭和51年8月17日 環大企220号通知）。

注3：指針との比較：オキシダントの日最高1時間値の0.06ppmに対応する午前6時から9時までの非メタン炭化水素の3時間平均値は0.20ppmCから0.31ppmCの範囲にあること。

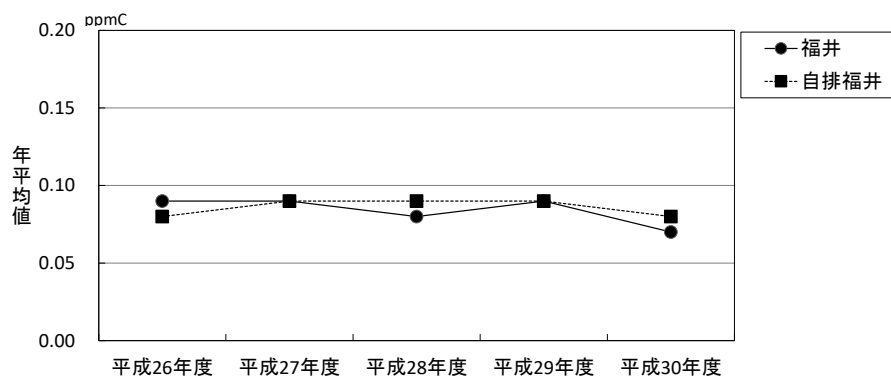
出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

表 4.1-16 非メタン炭化水素の経年変化（平成26～30年度）

種別	所在市町	番号 ^注	測定局	年平均値 (ppmC)				
				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一般局	福井市	1	福井	0.09	0.09	0.08	0.09	0.07
自排局	福井市	3	自排福井	0.08	0.09	0.09	0.09	0.08

注：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）



出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

図 4.1-10 非メタン炭化水素の経年変化（平成26～30年度）

9) 塩化水素

塩化水素は、クリーンセンター監視局3局で測定されている。

平成30年度の測定結果は表 4.1-17に示すとおりであり、年平均値は0.000ppmとなっている。また、測定結果は、すべての測定局で目標環境濃度を下回っている。

平成26～30年度の年平均値の経年変化は表 4.1-18及び図 4.1-11に示すとおりであり、各測定局とも横ばい傾向である。

表 4.1-17 塩化水素の測定結果（平成30年度）

種別	所在市町	番号 ^{注1}	測定局	年平均値	1時間値の最高値	1日平均値の最高値	1時間値が0.02ppmを超えた時間数	目標環境濃度との比較 ^{注2,3}
				(ppm)	(ppm)	(ppm)	(時間)	
クリーンセンター監視局	福井市	4	岡保	0.000	0.016	0.002	0	○
		5	吉野	0.000	0.055	0.014	10	○
	永平寺町	6	松岡	0.000	0.004	0.001	0	○

注1：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

注2：表中の「目標環境濃度との比較」の欄で、○：達成 ×：非達成 を示す。

目標環境濃度は、環境庁大気保全局長通達（昭和52年6月16日 環大規第136号）による。

注3：目標環境濃度は排出口の塩化水素濃度の規制基準を定めた際に用いられた値（0.02ppm）。

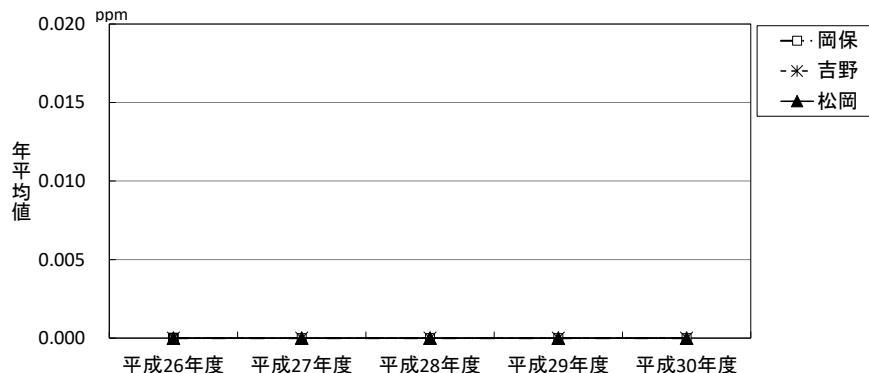
出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

表 4.1-18 塩化水素の経年変化（平成26～30年度）

種別	所在市町	番号 ^注	測定局	年平均値 (ppm)				
				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
クリーンセンター監視局	福井市	4	岡保	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
		永平寺町	5	吉野	0.000	0.000	0.000	0.000
	6	松岡	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	

注：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）



出典：「福井県大気汚染情報」（福井県ホームページ）

図 4.1-11 塩化水素の経年変化（平成26～30年度）

10) 有害大気汚染物質

有害大気汚染物質は、対象事業実施区域及びその周囲では、福井測定局及び自排福井測定局で測定されている。

平成30年度の有害大気汚染物質の測定結果は、表 4.1-19に示すとおりであり、環境基準の設定されている物質について、基準を達成している。

表 4.1-19 有害大気汚染物質の測定結果（平成30年度）

物質名	測定局		環境基準
	福井	自排福井	
テトラクロロエチレン	0.082 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.28 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1年平均値が0.2mg/m ³ 以下
トリクロロエチレン	0.34 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.66 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1年平均値が0.13mg/m ³ 以下
ベンゼン	0.67 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.83 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1年平均値が0.003mg/m ³ 以下
ジクロロメタン	1.5 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1.7 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1年平均値が0.15mg/m ³ 以下
アクリロニトリル	0.023 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.082 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—
塩化ビニルモノマー	0.038 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.11 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—
クロロホルム	0.21 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.36 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—
1,2-ジクロロエタン	0.16 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.29 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—
水銀及びその化合物	0.0018 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—	—
ニッケル化合物	0.0014 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—	—
ヒ素及びその化合物	0.00011 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—	—
1,3-ブタジエン	0.047 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.12 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—
マンガン及びその化合物	0.0041 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—	—
アセトアルデヒド	1.7 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	2.2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—
塩化メチル	1.3 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1.3 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—
クロム及びその化合物	0.0012 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—	—
酸化エチレン	0.042 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—	—
トルエン	6.1 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	6.2 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—
ベリリウム及びその化合物	0.0000073 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—	—
ベンゾ [a] ピレン	0.000027 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	0.042 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—
ホルムアルデヒド	1.9 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	1.9 $\mu\text{g}/\text{m}^3$	—

出典：「令和元年度版 環境白書（資料編）」（令和2年3月 福井県）

11) ダイオキシン類

大気中のダイオキシン類は、平成30年度には福井県内の一般地域4地点、廃棄物焼却施設周辺地域5地点で測定されている。対象事業実施区域及びその周囲では豊島東公園内を対象に福井測定局でダイオキシン類が測定されている。

平成30年度における測定結果は、表 4.1-20に示すとおりである。ダイオキシン類の濃度は、0.021～0.044pg-TEQ/m³の範囲にあり、年平均値は0.028pg-TEQ/m³であり環境基準を下回っている。

平成26～30年度の年平均値の経年変化は表 4.1-21及び図 4.1-12に示すとおりであり、各測定局においていずれの年度も環境基準を下回っている。

表 4.1-20 ダイオキシン類の測定結果（平成30年度）

測定地点名	採取日	ダイオキシン類濃度 (pg-TEQ/m ³)	対象施設等
福井市豊島 (大気汚染常時監視 測定局 福井局)	平成30年5月30日～6月6日	0.021	定点（豊島東公園内）
	平成30年8月1日～8月8日	0.044	
	平成30年11月8日～11月15日	0.026	
	平成31年2月7日～2月14日	0.021	
	年平均値	0.028	
環境基準		0.6	—

注：福井局の位置は、図 4.1-3に示す。

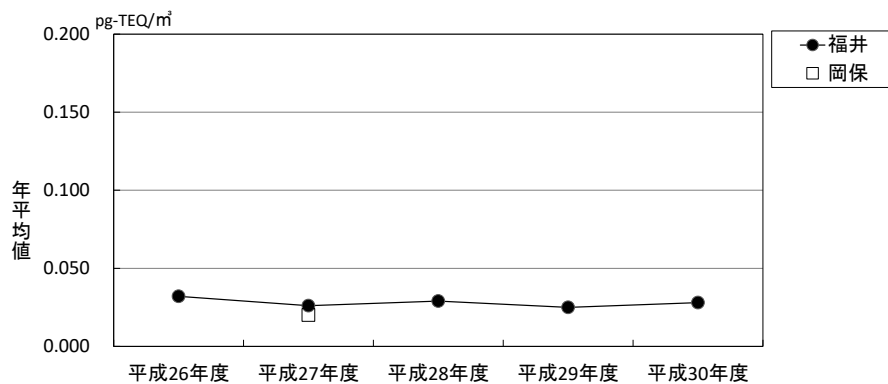
出典：「平成30年度ダイオキシン類調査結果について」（福井県ホームページ）

表 4.1-21 ダイオキシン類の経年変化（平成26～30年度）

種別	所在市町	番号 ^注	測定局	年平均値 (pg-TEQ/m ³)				
				平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
一般局	福井市	1	福井	0.032	0.026	0.029	0.025	0.028
グリーンセンター 監視局	福井市	4	岡保	—	0.020	—	—	—

注：表中の番号は、図 4.1-3の番号と対応する。

出典：「平成26～30年度ダイオキシン類調査結果について」（福井県ホームページ）



出典：「平成26～30年度ダイオキシン類調査結果について」（福井県ホームページ）

図 4.1-12 ダイオキシン類の経年変化（平成26～30年度）

(2) 騒音の状況

1) 環境騒音

福井市では平成29年度に環境騒音の調査を行っているが、対象事業実施区域及びその周囲では行われていない。また、永平寺町では環境騒音の調査は行われていない。

なお、福井市内の2地点で測定された結果は、表 4.1-22に示すとおりであり、2地点とも昼間及び夜間の時間帯とも環境基準に適合している。

表 4.1-22 一般地域の騒音調査結果（平成29年度）

番号	測定地点	測定日	用途地域の区分	地域の類型	時間帯 ^注	測定結果 (デシベル)	環境基準 (デシベル)	評価
1	大願寺3丁目2-18 大願寺公民館	11月1日 ～11月2日	準工業地域	C	昼間	45	60	適合
					夜間	39	50	適合
2	下森田藤巻町2 森田公民館	11月6日 ～11月7日	準工業地域	C	昼間	44	60	適合
					夜間	38	50	適合

注：昼間の時間区分は6:00～22:00、夜間の時間区分は22:00～6:00である。

出典：「ふくいの環境（平成29年度版）」（福井市ホームページ）

2) 道路交通騒音

自動車騒音に係る環境基準の評価は、平成30年度には福井市で9区間行われている。対象事業実施区域及びその周囲には6区間があり、その位置は図 4.1-13に示すとおりである。

調査結果は表 4.1-23に示すとおりであり、1区間で昼間及び夜間、3区間で夜間に環境基準を超過する区間があり、昼間・夜間ともに達成率が100%となっているのは2区間である。

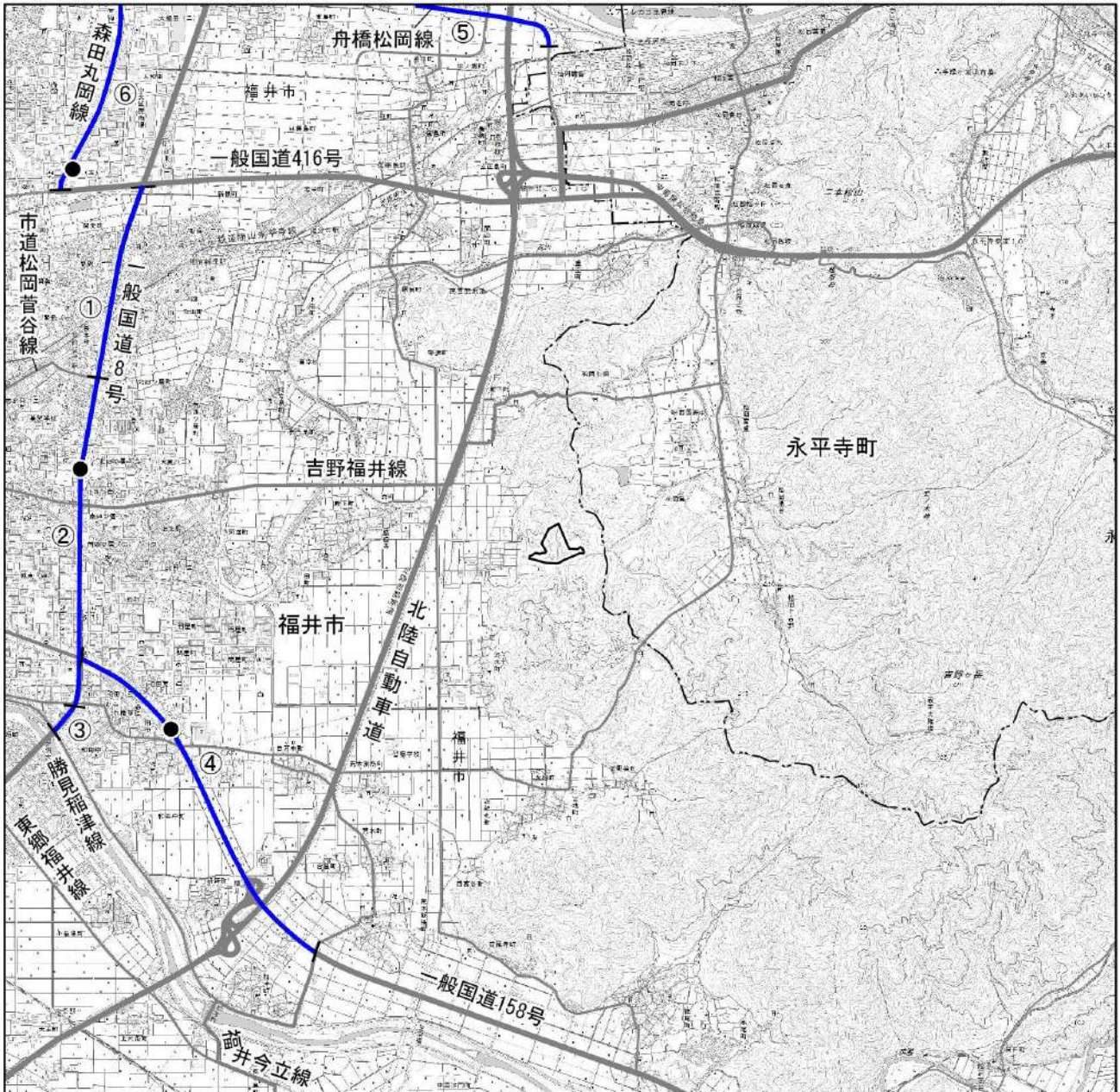
表 4.1-23 自動車騒音調査結果（平成30年度）

番号	路線名	測定地点	評価区間	騒音測定結果		評価対象 住居等戸数 (戸)	環境基準 超過戸数 (戸)	環境基準 達成率 (%)
				(デシベル)				
①	一般国道8号	—	福井市新保町 ～米松1丁目	昼間	—	242	0	100
				夜間	—		4	98.3
②	一般国道8号	米松1丁目 15-41	福井市米松2丁目 ～和田2丁目	昼間	70	305	1	99.7
				夜間	69		43	85.6
③	一般国道8号	—	福井市和田2丁目 ～和田2丁目	昼間	—	29	0	100
				夜間	—		6	79.3
④	一般国道158号	和田東2丁目 2207	福井市和田2丁目 ～稲津町	昼間	70	169	0	100
				夜間	63		2	98.8
⑤	一般県道 舟橋松岡線	—	福井市舟橋町 ～中ノ郷町	昼間	—	478	0	100
				夜間	—		0	100
⑥	一般県道 森田丸岡線	開発町	福井市開発5丁目 ～高柳2丁目	昼間	58	174	0	100
				夜間	54		0	100

注：昼間の時間区分は6:00～22:00、夜間の時間区分は22:00～6:00である。

出典：「ふくいの環境（令和元年度版）」（福井市ホームページ）

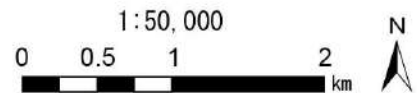
「環境GIS 自動車騒音の常時監視結果」（国立環境研究所ホームページ）



凡例

- 対象事業実施区域
- 市町界
- 自動車騒音評価区間
- 自動車騒音測定地点
- 高速自動車道、一般国道
- 主要地方道
- 一般県道

この地図は国土地理院発行の1:25,000地形図「越前森田」「丸岡」「福井」「永平寺」を使用し、1:50,000の縮尺に編集したものである。



出典：「環境GIS 自動車騒音の常時監視結果」（国立環境研究所ホームページ）

図 4.1-13 自動車騒音測定地点及び評価区間位置図

(3) 振動の状況

福井市及び永平寺町では振動に係る調査の報告は行われていない。

(4) 悪臭の状況

福井市及び永平寺町では悪臭に係る調査の報告は行われていない。

4.1.3 水象の状況

(1) 河川の状況

対象事業実施区域及びその周囲における河川の概要は表 4.1-24に、位置は図 4.1-14に示すとおりである。

対象事業実施区域は一級河川荒川の流域に含まれ、河川水は一級河川足羽川、一級河川日野川を経て、最終的に一級河川九頭竜川に流入する。

表 4.1-24 河川の状況

水系名	河川名	河川種別	管理	流路延長
九頭竜川	九頭竜川	一級河川	国	111.4km
	日野川 ^注	一級河川	国、県	65.5km
	足羽川	一級河川	県	57.0km
	荒川	一級河川	県	14.0km

注：日野川は図 4.1-14の範囲外に位置する。
出典1：「福井県統計年鑑」（福井県ホームページ）
出典2：「福井市内の河川について」（福井市ホームページ）

(2) 湖沼、海域の状況

対象事業実施区域及びその周囲には湖沼、海域は分布していない。

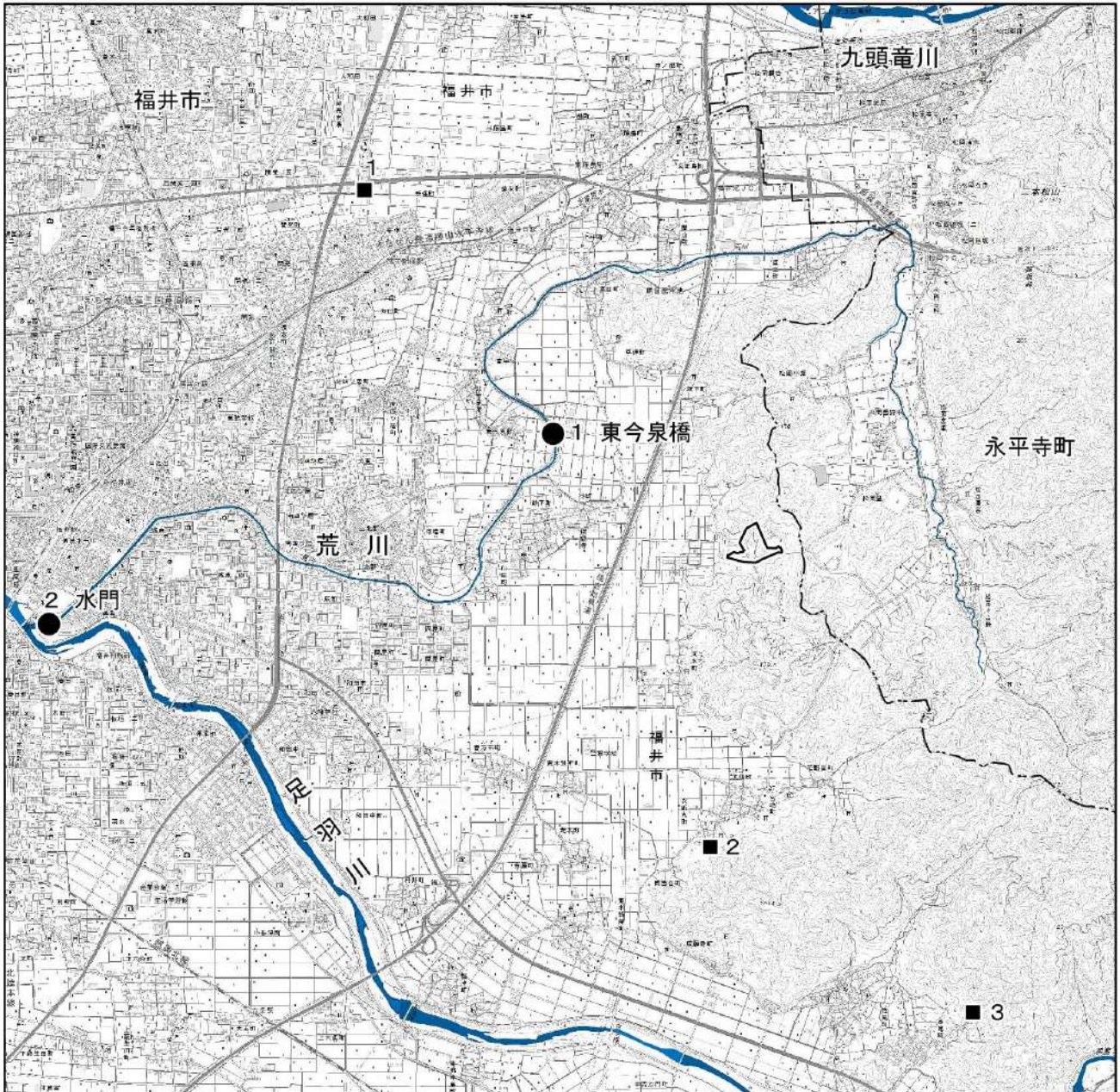
(3) 地下水の状況

対象事業実施区域及びその周囲には表 4.1-25及び図 4.1-14に示す湧水が分布している。

表 4.1-25 対象事業実施区域及びその周囲における湧水の状況

番号 ^注	名称	所在地	概要等
1	新保町邑の北伏流水	福井市 新保	伏流水はきれいで冷たく豊富である。 丸山水源の歴史を知る上で、価値のある場所。
2	岡の泉	福井市 次郎丸町	太古の昔から湧き出ている清水は、年中水量・水温が変わらず、周辺は夏は涼しく冬は湯気がたちこめている。 朝倉時代には岡西光寺や吉備神社の聖水として使われ、地区の農業では一町歩の稲を育てたり、農民の憩いの場として活用されている。 現在は、県内各地からまるやかな水を求めて水汲みにくる人達でにぎわっている。
3	亭(ちん)の水	福井市 高尾町	薬師神社の湧水。市内でも有名な名水の一つ。 約2,000年前からあったが、戦国時代、朝倉孝景に招かれた谷野一柏という明で医学を修めた医者が、眼病に効く水として用いた。 現在は万病に効く水として重宝されている。夏季には6坪ほどの泉ができるという。 現地までは看板も設置されており、観光等にも配慮されている。 また、町内の生活用水として活用されている。また、近辺には谷(ダニ)の霊泉もある。 その湧水は、今まで涸れたことがなく、水辺に虫やヤモリ等も棲んでいる、2m程のちょっとした素敵な水辺(泉)である。 (一部省略)

注：番号は図 4.1-14に対応する。
出典1：「福井県の代表的な湧水」（環境省ホームページ）
出典2：「大切にしたい水と緑の憩いマップ福井」（福井市環境パートナーシップ会議ホームページ）



凡例

- 対象事業実施区域
- 市町界
- ~ 河川
- 湧水
- 水質及び底質（ダイオキシン類）調査地点

出典1：「福井県統計年鑑」（福井県ホームページ）
 出典2：「福井市内の河川について」（福井市ホームページ）
 出典3：「福井県の代表的な湧水」（環境省ホームページ）
 出典4：「大切にしたい水と緑の憩いマップ福井」（福井市環境パートナーシップ会議ホームページ）
 出典5：「平成30年度ダイオキシン類調査結果について」（福井県ホームページ）

この地図は国土地理院発行の1:25,000地形図「越前森田」「丸岡」「福井」「永平寺」を使用し、1:50,000の縮尺に編集したものである。

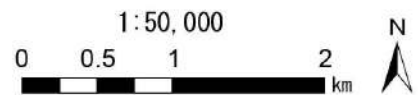


図 4.1-14 河川、湧水及び水質測定地点位置図

4.1.4 水環境の状況

(1) 水質の状況

1) 河川水質

対象事業実施区域及びその周囲の河川における水質の測定地点は、図 4.1-14に示したとおりであり、荒川の2地点で実施されている。

平成30年度の測定結果は、表 4.1-26に示すとおりである。

一般項目について、地点1（東今泉橋）では、大腸菌群数が環境基準を超過しているものの、その他の項目は環境基準を満足している。また、地点2（水門）では、すべての項目で環境基準を満足している。なお、地点1（東今泉橋）の生物化学的酸素要求量（BOD）及び地点2（水門）の浮遊物質（SS）において、年平均値（又は75%値）は環境基準を満足しているものの、一部、環境基準値を超過している値がみられる。

健康項目及びダイオキシン類について、測定が行われている地点2（水門）では、すべての項目で環境基準を満足している。また、要監視項目について、測定が行われている地点2（水門）では、指針値を満足している。

表 4.1-26 公共用水域の水質測定結果（平成30年度）

河川名称		九頭竜川水系						環境基準 指針値	
		荒 川							
調査地点		1 東今泉橋			2 水門			A	B
水域類型		A			B				
項 目		平均	最小～最大	m/n ^{注1}	平均	最小～最大	m/n ^{注1}		
一般項目	水素イオン濃度(pH)	7.6	7.5～8.0	0/12	7.6	7.5～7.8	0/12	6.5以上 8.5以下	6.5以上 8.5以下
	溶存酸素量(DO)(mg/L)	10	8.6～12	0/12	9.7	7.9～11	0/12	7.5以上	5以上
	生物化学的酸素要求量(BOD)(mg/L)	1.1(1.1) ^{注2}	0.7～2.1	1/12	1.2(1.3) ^{注2}	<0.5～2.5	0/12	2以下	3以下
	化学的酸素要求量(COD)(mg/L)	2.6	1.6～3.9	-/12	3.7	1.7～7.4	-/12	—	—
	浮遊物質(SS)(mg/L)	7	2～21	0/12	7	2～27	1/12	25以下	25以下
	大腸菌群数(MPN/100mL)	2,500	1,700～ 3,300	2/2	4,900	4,900～ 4,900	0/2	1,000 以下	5,000 以下
健康項目	カドミウム(mg/L)	—	—	—	<0.001	～<0.001	0/2	0.003以下	
	全シアン(mg/L)	—	—	—	<0.1	～<0.1	0/2	検出されないこと	
	鉛(mg/L)	—	—	—	<0.002	～<0.002	0/2	0.01以下	
	六価クロム(mg/L)	—	—	—	<0.02	～<0.02	0/2	0.05以下	
	砒素(mg/L)	—	—	—	<0.005	～<0.005	0/2	0.01以下	
	総水銀(mg/L)	—	—	—	<0.0005	～<0.0005	0/2	0.0005以下	
	ジクロロメタン(mg/L)	—	—	—	<0.002	～<0.002	0/2	0.02以下	
	四塩化炭素(mg/L)	—	—	—	<0.0002	～<0.0002	0/2	0.002以下	
	1,2-ジクロロエタン(mg/L)	—	—	—	<0.0004	～<0.0004	0/2	0.004以下	
	1,1-ジクロロエチレン(mg/L)	—	—	—	<0.002	～<0.002	0/2	0.1以下	
	シス-1,2-ジクロロエチレン(mg/L)	—	—	—	<0.004	～<0.004	0/2	0.04以下	
	1,1,1-トリクロロエタン(mg/L)	—	—	—	<0.0005	～<0.0005	0/2	1以下	
	1,1,2-トリクロロエタン(mg/L)	—	—	—	<0.0006	～<0.0006	0/2	0.006以下	
	トリクロロエチレン(mg/L)	—	—	—	<0.001	～<0.001	0/2	0.01以下	
	テトラクロロエチレン(mg/L)	—	—	—	<0.0005	～<0.0005	0/2	0.01以下	
	1,3-ジクロロプロペン(mg/L)	—	—	—	<0.0002	～<0.0002	0/2	0.002以下	
	チウラム(mg/L)	—	—	—	<0.0006	～<0.0006	0/2	0.006以下	
	シマジン(CAT)(mg/L)	—	—	—	<0.0003	～<0.0003	0/2	0.003以下	
	チオベンカルブ(mg/L)	—	—	—	<0.002	～<0.002	0/2	0.02以下	
	ベンゼン(mg/L)	—	—	—	<0.001	～<0.001	0/2	0.01以下	
	セレン(mg/L)	—	—	—	<0.002	～<0.002	0/2	0.01以下	
	ふっ素(mg/L)	—	—	—	<0.1	～<0.1	0/2	0.8以下	
	ほう素(mg/L)	—	—	—	0.03	<0.02～0.03	0/2	1以下	
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素(mg/L)	—	—	—	0.30	0.25～0.35	0/2	10以下		
(硝酸性窒素)(mg/L)	—	—	—	0.29	0.24～0.34	-/2	—		
(亜硝酸性窒素)(mg/L)	—	—	—	0.01	<0.01～0.01	-/2	—		
1,4-ジオキサン(mg/L)	—	—	—	<0.005	～<0.005	0/2	0.05以下		
要監視項目	クロロホルム(mg/L)	—	—	—	<0.003	～<0.003	-/1	0.06以下	
水生生物保全項目	全亜鉛(mg/L)	—	—	—	0.0025	0.001～0.004	-/2	—	
	ノニルフェノール(mg/L)	—	—	—	<0.00006	～<0.00006	-/2	—	
	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸(mg/L)	—	—	—	0.0024	<0.0006～ 0.0041	-/2	—	
	クロロホルム(mg/L)	—	—	—	<0.003	～<0.003	-/1	—	
	フェノール(mg/L)	—	—	—	<0.005	～<0.005	-/1	—	
	ホルムアルデヒド(mg/L)	—	—	—	<0.01	～<0.01	-/1	—	
	4-tert-オクチルフェノール(mg/L)	—	—	—	<0.00003	～<0.00003	-/1	—	
	アニリン(mg/L)	—	—	—	<0.002	～<0.002	-/1	—	
2,4-ジクロロフェノール(mg/L)	—	—	—	<0.0003	～<0.0003	-/1	—		
ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	—	—	—	0.077	0.077	0/1	1以下		

注1：m/nは、環境基準に適合しない検体数/総検体数。

注2：BODの()内は75%値。

出典1：「ふくいの環境（令和元年度版）」（福井市ホームページ）

出典2：「平成30年度ダイオキシン類調査結果について」（福井県ホームページ）

2) 地下水水質

福井市及び永平寺町における平成30年度の概況調査における地下水水質測定結果は、表 4.1-27に示すとおりであり、調査したすべての地点ともすべての項目で環境基準を満足している。

また、福井市六条における平成30年度の定点監視調査における地下水水質測定結果は、表 4.1-28に示すとおりであり、すべての項目で環境基準を満足している。

表 4.1-27(1) 概況調査における地下水水質測定結果（平成30年度）

市町名	福井市		永平寺町		環境基準
	地点数	濃度範囲(mg/L)	地点数	濃度範囲(mg/L)	
カドミウム	6	<0.001	1	<0.001	0.003以下
全シアン	6	<0.1	1	<0.1	検出されないこと
鉛	6	<0.005	1	<0.005	0.01以下
六価クロム	6	<0.04	1	<0.04	0.05以下
砒素	6	<0.005～0.005	1	<0.005	0.01以下
総水銀	6	<0.0005	1	<0.0005	0.0005以下
ポリ塩化ビフェニル(PCB)	6	<0.0005	1	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	6	<0.002	1	<0.002	0.02以下
四塩化炭素	6	<0.0002	1	<0.0002	0.002以下
塩化ビニルモノマー	6	<0.0002	1	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	6	<0.0004	1	<0.0004	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	6	<0.002	1	<0.002	0.1以下
1,2-ジクロロエチレン	6	<0.004	1	<0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	6	<0.0005	1	<0.0005	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	6	<0.0006	1	<0.0006	0.006以下
トリクロロエチレン	6	<0.001	1	<0.001	0.01以下
テトラクロロエチレン ^注	6	<0.0005	1	<0.0005	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	6	<0.0002	1	<0.0002	0.002以下
チウラム	6	<0.0006	1	<0.0006	0.006以下
シマジン(CAT)	6	<0.0003	1	<0.0003	0.003以下
チオベンカルブ	6	<0.002	1	<0.002	0.02以下
ベンゼン	6	<0.001	1	<0.001	0.01以下
セレン	6	<0.002	1	<0.002	0.01以下
硝酸性窒素及び亜硝酸窒素	6	<0.02～0.42	1	0.80	10以下
ふっ素	6	<0.1～0.1	1	<0.1	0.8以下
ほう素	6	<0.02～0.03	1	0.02	1以下
1,4-ジオキサン	6	<0.005	1	<0.005	0.05以下

注：1地区でテトラクロロエチレンが環境基準以下で検出されたが、同物質による環境基準超過地区内のため、新たな汚染ではない。

出典1：「平成30年度（2018年）公共用水域及び地下水の水質の測定結果報告書」（福井県ホームページ）

出典2：「平成30年度ダイオキシン類調査結果について」（福井県ホームページ）

表 4.1-27(2) 概況調査における地下水水質測定結果（平成30年度）

市町名	福井市		永平寺町		環境基準 指針値
	地点数	濃度範囲(mg/L)	地点数	濃度範囲(mg/L)	
クロロホルム	—	—	1	<0.003	0.06以下
1,2-ジクロロプロパン	—	—	1	<0.006	0.06以下
p-ジクロロベンゼン	—	—	1	<0.02	0.2以下
イソキサチオン	—	—	1	<0.0008	0.008以下
ダイアジノン	—	—	1	<0.0005	0.005以下
フェニトロチオン	—	—	1	<0.0003	0.003以下
イソプロチオラン	—	—	1	<0.004	0.04以下
オキシ銅	—	—	1	<0.004	0.04以下
クロタロニル	—	—	1	<0.005	0.05以下
プロピザミド	—	—	1	<0.0008	0.008以下
EPN	—	—	1	<0.0006	0.006以下
ジクロロボス	—	—	1	<0.0008	0.008以下
フェノブカルブ	—	—	1	<0.003	0.03以下
イプロベンホス	—	—	1	<0.0008	0.008以下
クロルニトロフェン	—	—	1	—	—
トルエン	—	—	1	<0.06	0.6以下
キシレン	—	—	1	<0.04	0.4以下
フタル酸ジエチルヘキシル	—	—	1	<0.006	0.06以下
ニッケル	—	—	1	<0.005	—
モリブデン	—	—	1	<0.01	0.07以下
アンチモン	—	—	1	<0.001	0.02以下
エピクロロヒドリン	—	—	1	<0.0001	0.0004以下
全マンガン	—	—	1	<0.02	0.2以下
ウラン	—	—	1	<0.0002	0.002以下
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	1	0.062	—	—	1以下

出典1：「平成30年度（2018年）公共用水域及び地下水の水質の測定結果報告書」（福井県ホームページ）
 出典2：「平成30年度ダイオキシン類調査結果について」（福井県ホームページ）

表 4.1-28(1) 定点監視調査における地下水水質測定結果（平成30年度）

市及び地区名	福井市 六条		環境基準
	地点数	濃度範囲(mg/L)	
カドミウム	1	<0.001	0.003以下
全シアン	1	<0.1	検出されないこと
鉛	1	<0.005	0.01以下
六価クロム	1	<0.04	0.05以下
砒素	1	<0.005	0.01以下
総水銀	1	<0.0005	0.0005以下
ポリ塩化ビフェニル(PCB)	1	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	1	<0.002	0.02以下
四塩化炭素	1	<0.0002	0.002以下
塩化ビニルモノマー	1	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	1	<0.0004	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	1	<0.002	0.1以下
1,2-ジクロロエチレン	1	<0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	1	<0.0005	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	1	<0.0006	0.006以下
トリクロロエチレン	1	<0.001	0.01以下
テトラクロロエチレン ^注	1	<0.0005	0.01以下
1,3-ジクロロプロパン	1	<0.0002	0.002以下
チウラム	1	<0.0006	0.006以下
シマジン(CAT)	1	<0.0003	0.003以下
チオベンカルブ	1	<0.002	0.02以下
ベンゼン	1	<0.001	0.01以下
セレン	1	<0.002	0.01以下
硝酸性窒素及び亜硝酸窒素	1	<0.60~0.64	10以下
ふっ素	1	<0.1	0.8以下
ほう素	1	<0.02	1以下
1,4-ジオキサン	1	<0.005	0.05以下

出典：「平成30年度（2018年）公共用水域及び地下水の水質の測定結果報告書」（福井県ホームページ）

表 4.1-28(2) 定点監視調査における地下水水質測定結果（平成30年度）

市及び地区名	福井市 六条		指針値	
	項目	地点数		濃度範囲 (mg/L)
要 監 視 項 目	クロロホルム	1	<0.003	0.06以下
	1,2-ジクロロプロパン	1	<0.006	0.06以下
	p-ジクロロベンゼン	1	<0.02	0.2以下
	イソキサチオン	1	<0.0008	0.008以下
	ダイアジノン	1	<0.0005	0.005以下
	フェニトロチオン	1	<0.0003	0.003以下
	イソプロチオラン	1	<0.004	0.04以下
	オキシシン銅	1	<0.004	0.04以下
	クロロタロニル	1	<0.005	0.05以下
	プロピザミド	1	<0.0008	0.008以下
	EPN	1	<0.0006	0.006以下
	ジクロロボス	1	<0.0008	0.008以下
	フェノブカルブ	1	<0.003	0.03以下
	イプロベンホス	1	<0.0008	0.008以下
	クロルニトロフェン	1	<0.0001	—
	トルエン	1	<0.06	0.6以下
	キシレン	1	<0.04	0.4以下
	フタル酸ジエチルヘキシル	1	—	0.06以下
	ニッケル	1	<0.005	—
	モリブデン	1	—	0.07以下
アンチモン	1	—	0.02以下	
エピクロロヒドリン	1	—	0.0004以下	
全マンガン	1	—	0.2以下	
ウラン	1	—	0.002以下	

出典：「平成30年度（2018年）公共用水域及び地下水の水質の測定結果報告書」（福井県ホームページ）

(2) 水底の底質の状況

対象事業実施区域及びその周囲の河川における平成30年度における底質（ダイオキシン類）の測定地点は、図 4.1-14に示したとおりであり、荒川の1地点（水門）で実施されている。

測定結果は表 4.1-29に示すとおりであり、環境基準を下回っている。

表 4.1-29 底質（ダイオキシン類）の測定結果（平成30年度）

水系名	測定地点名	採取日	ダイオキシン類濃度 (pg-TEQ/g)
荒川	水門	平成30年10月15日	0.26
環境基準			150

注：測定地点の位置は、図 4.1-14に示す。

出典：「平成30年度ダイオキシン類調査結果について」（福井県ホームページ）

4.1.5 土壌、地盤、地形及び地質の状況

(1) 土壌の状況

1) 土壌の分布

対象事業実施区域及びその周囲における土壌の分布状況は、図 4.1-15に示すとおりである。

平野部の氾濫原には、主に細粒グライ土や細粒強グライ土が分布し、扇状地には中粗粒灰色低地土、細粒灰色低地土などが分布している。

山地の尾根部には乾性褐色森林土壌が尾根筋に沿って樹枝状に分布し、斜面部分には乾性赤色系褐色森林土が分布している。また、福井市と永平寺町の境界に位置する傾斜の少ない山地には褐色森林土壌が分布している。

2) 土壌汚染

土壌汚染対策法（平成14年 法律第53号）に基づく対象事業実施区域及びその周囲での要措置区域等の指定状況は、表 4.1-30及び図 4.1-16に示すとおりであり、福井市坂下町に「形質変更時要届出区域」が1か所指定されている。

表 4.1-30 土壌汚染対策法に基づく形質変更時要届出区域の指定状況

番号 ^注	整理番号	指定年月日	指定番号	区域の所在地	区域の面積	指定に係る特定有害物質の種類
A	整-18-1	平成18年 11月1日	指-1	福井市坂下町7字 ほかの一部	5,393m ²	1,2-ジクロロエタン 1,1-ジクロロエチレン シス-1,2-ジクロロエチレン ジクロロメタン テトラクロロエチレン 1,1,1-トリクロロエタン 1,1,2-トリクロロエタン トリクロロエチレン ベンゼン

注：番号は図 4.1-16の番号に対応する。

出典：「土壌汚染対策法に基づく区域の指定情報」（福井市ホームページ）

また、ごみ処理施設周辺（福井市クリーンセンター周辺）を対象として対象事業実施区域及びその周囲で平成29年7月に実施されたダイオキシン類の測定結果は表 4.1-31に、測定地点の位置は図 4.1-16に示すとおりである。

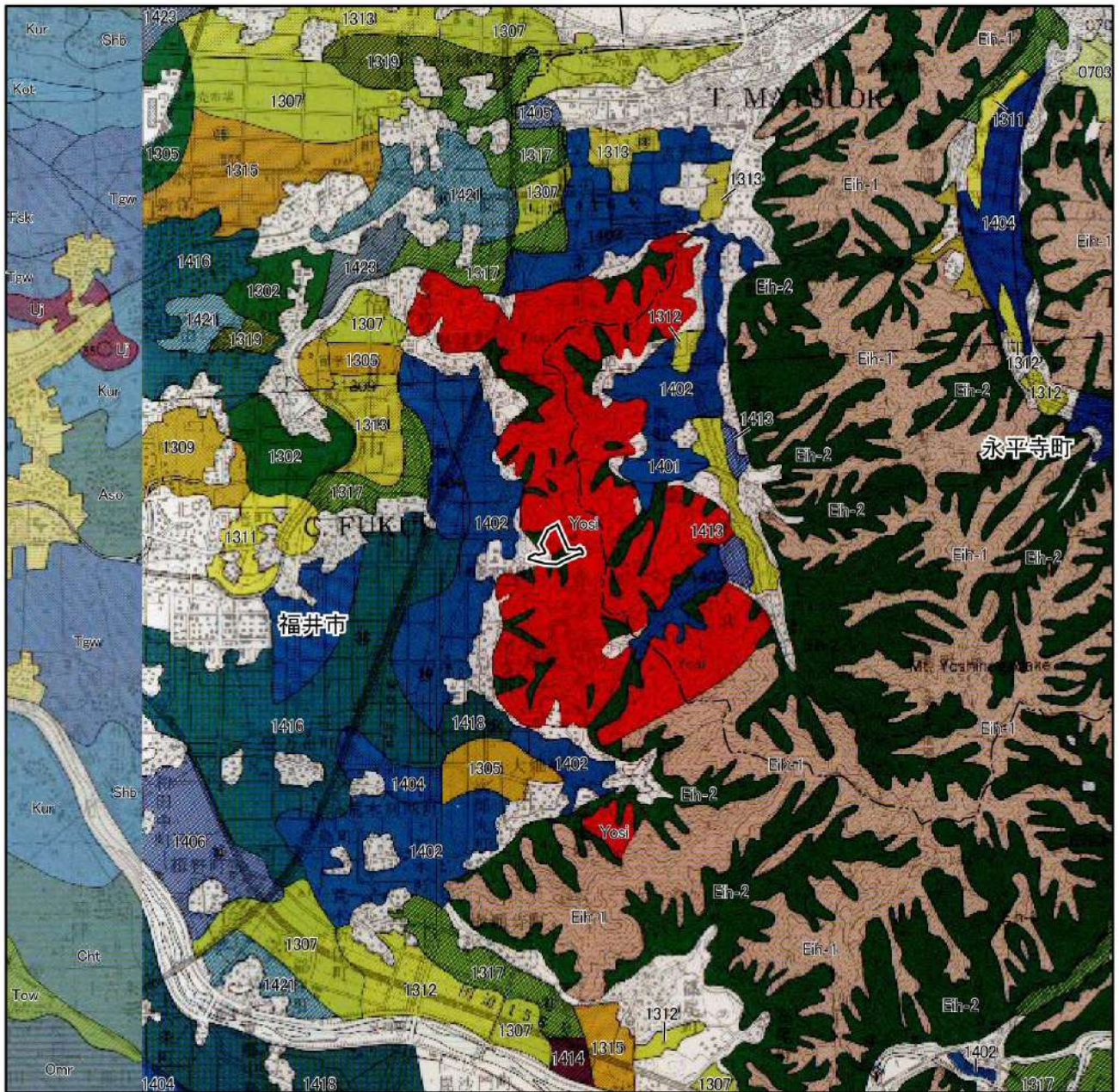
調査結果は、両地点とも環境基準（1,000pg-TEQ/g以下）を満足している。

表 4.1-31 土壌中のダイオキシン類の測定結果（平成29年度）

番号 ^注	測定地点名	採取日	ダイオキシン類濃度 (pg-TEQ/g)
1	吉野幼稚園（永平寺町松岡吉野26-21）	平成29年7月28日	0.019
2	岡保小学校（福井市河水町18-8）		0.0088
環境基準			1,000

注：番号は図 4.1-16の番号に対応する。

出典：「平成29年度ダイオキシン類調査結果について」（福井県ホームページ）



凡例

対象事業実施区域 市町界

【福井凡例】

台地及び低地の土壌	グライ土壌
細粒灰色低地土壌	東和統
細粒グライ土壌	芝井統
粗粒グライ土壌	鉄統
黒泥土壌	富曾亀統
その他	田川統
未区分地	千年統
	浅津統
	大森統

【永平寺凡例】

山地及び丘陵地の土壌	低地の土壌
乾性褐色森林土壌	細粒灰色低地土灰色系
褐色森林土壌	細粒灰色低地土灰褐色系
乾性赤色系褐色森林土壌	礫質強グライ土
台地の土壌	細粒強グライ土
細粒灰色台地土	中粗粒強グライ土
小向統	中粗粒強グライ土
	芝井統
	尾尾統

色凡例区分



出典1: 「土地分類基本調査図 土じょう図 福井」
(昭和46年3月、経済企画庁)
出典2: 「土地分類基本調査図 土壌図 永平寺」
(昭和63年・平成元年、福井県)

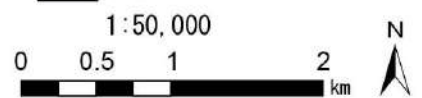


図 4.1-15 土壌図



凡 例

- 対象事業実施区域
- 市町界
- 土壤汚染対策法による形質変更時要届出区域
- 土壤中のダイオキシン類測定地点

この地図は国土地理院発行の1:25,000地形図「越前森田」「丸岡」「福井」「永平寺」を使用し、1:50,000の縮尺に編集したものである。

1:50,000



出典1:「土壤汚染対策法に基づく区域の指定情報」(福井市ホームページ)
 出典2:「平成29年度ダイオキシン類調査結果について」(福井県ホームページ)

図 4.1-16 土壤汚染に係る調査地点等位置図

(2) 地盤の状況

「令和元年度版 環境白書」(福井県ホームページ)によれば、福井平野における水準測量は昭和50年度からおおむね4年ごとに実施されている。平成28年度の測量結果では、約99%の地点が年間沈下量5mm未満になっている。

なお、対象事業実施区域及びその周囲に設定されている水準測量調査地点は図 4.1-17に、昭和51年度から平成28年度までの変動量は表 4.1-32に示すとおりである。

年間変動量は、対象事業実施区域に近い地点8(水準点番号3259)で0.0mm、地点11(水準点番号3260)で、0.5mmの隆起となっている

表 4.1-32 水準測量結果

番号 ^{注1}	水準点番号	水準点所在地(福井市)	変動量 (mm)														年間変動	累計(S50-H28)(mm)
			S51	S52	S53	S54	S54-S56	S56-S60	S60-S63	S63-H4	H4-H8	H8-H12	H12-H16	H16-H20	H20-H24	H24-H28		
福井市南部地域(対象地域)																		
1	27	下馬町	△5	6	△3	△2	△2	17	△1	10	8	0	△7	5	△2	0	0.0	24
2	28	小稲津町	△5	2	△1	0	△3	11	0	0	5	△1	△3	2	△1	0	0.0	6
対象地域を除く福井市 北東部																		
3	115	大和田町								設置	9	2	1	6	△2	1	0.3	17
4	116	開発4丁目								設置	8	0	0	6	△1	0	0.0	13
5	111	四ツ井2丁目								設置	3	2	△6	0	亡失			(△1)
6	5257	新保1丁目	2	7	△4	0	△7	13	0	3	1	△1	0	5	△2	0	0.0	17
7	5256	上中町	0	3	△4	△3	△2	6	△2	3	2	△9	3	3	△2	0	0.0	△2
8	3259	原目町	△1	3	△3	△1	△2	12	△5	3	3	△5	1	4	△3	0	0.0	6
9	106	成和2丁目						設置	5	8	6	△2	△1	5	△1	1	0.3	21
10	120	問屋2丁目								設置	7	△5	△2	6	△4	△1	△0.3	1
11	3260	河水町	△5	3	△4	0	△2	11	△1	2	5	△7	△1	5	△3	△2	△0.5	1
12	24	和田東町	△6	8	△1	△5	△2	20	1	再設	1	△3	△1	4	△1	0	0.0	15
13	25	曾万布町	△9	3	△7	3	△8	13	再設	3	0	△3	△4	3	△2	△1	△0.3	△9
14	3261	荒木町	△8	△1	△5	1	△6	5	△3	1	2	△4	△2	3	△3	△2	△0.5	△22
15	29	稲津町	△5	0	△1	3	△5	6	1	2	5	△4	△1	4	△2	△2	△0.5	1

注1: 表中の番号は、図 4.1-17の番号と対応する。

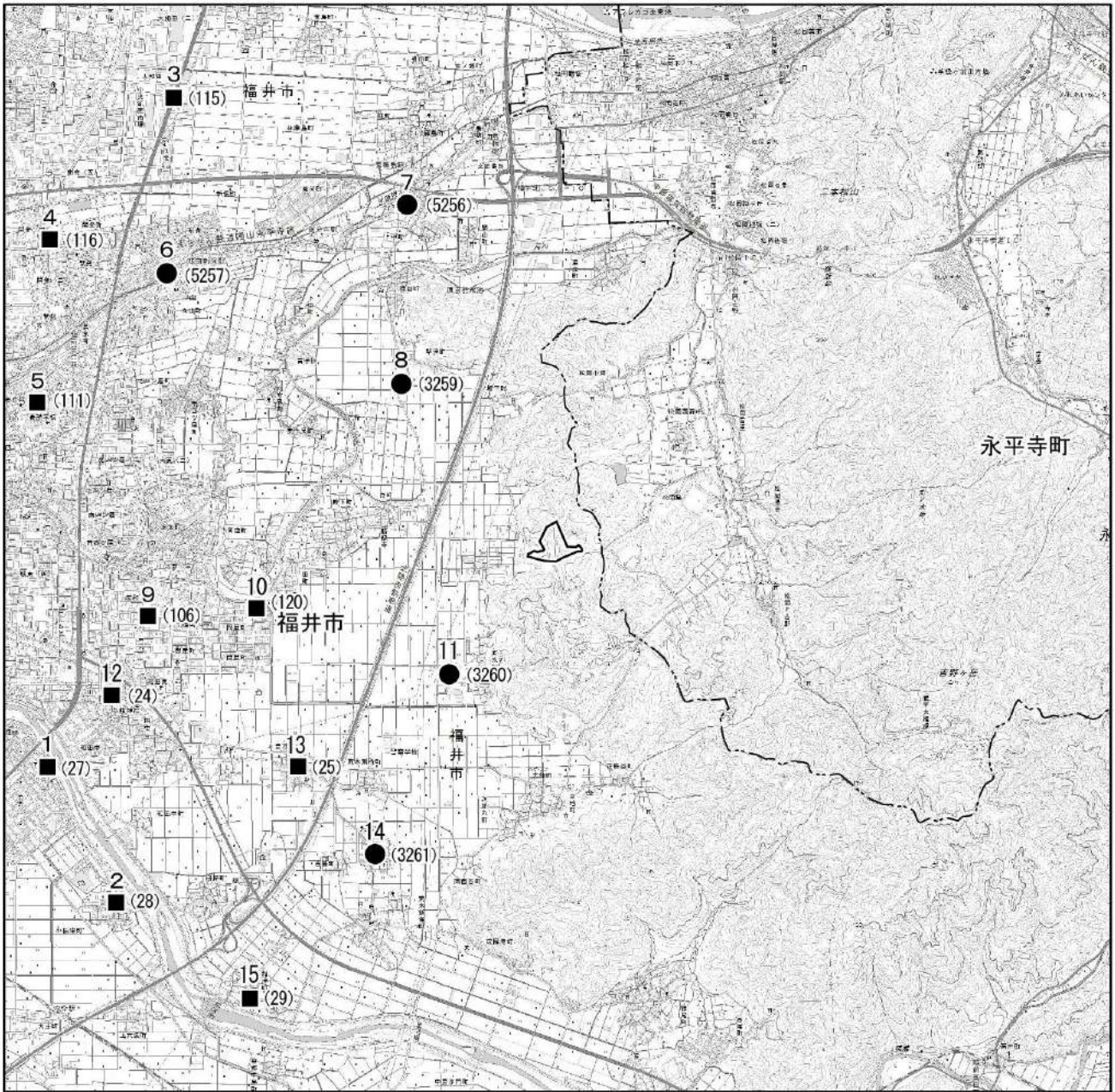
注2: △は隆起を示す。

注3: 累計の()は最終測定年までの累計である。

注4: 年間変動はH24~H28の変動量の年平均値である。

注5: 対象地域とは、福井県地盤沈下対策要綱(昭和50年10月)に基づき指定されていた地域を示している。

出典: 「令和元年度版 環境白書」(福井県ホームページ)



凡 例

- 事業実施想定区域
- 市町界
- 基本水準点
- 公共水準点

注：() 内の数字は水準点番号を示す。
 出典：「平成30年度版 環境白書」（福井県ホームページ）

この地図は国土地理院発行の1:25,000
 地形図「越前森田」「丸岡」「福井」「永
 平寺」を使用し、1:50,000の縮尺に編集
 したものである。

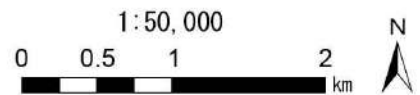


図 4.1-17 水準測量調査地点位置図

(3) 地形及び地質の状況

1) 地形の分布

対象事業実施区域及びその周囲における地形の分布状況は、図 4.1-18に示すとおりである。

低地部の九頭竜川及び足羽川沿いは傾斜の緩やかな扇状地が分布し、その間は氾濫原となっている。山地は傾斜が15～30度の一般斜面が広く分布している。

対象事業実施区域の地形は、山腹・山麓緩斜面（15度未満）となっている。

2) 表層地質の分布

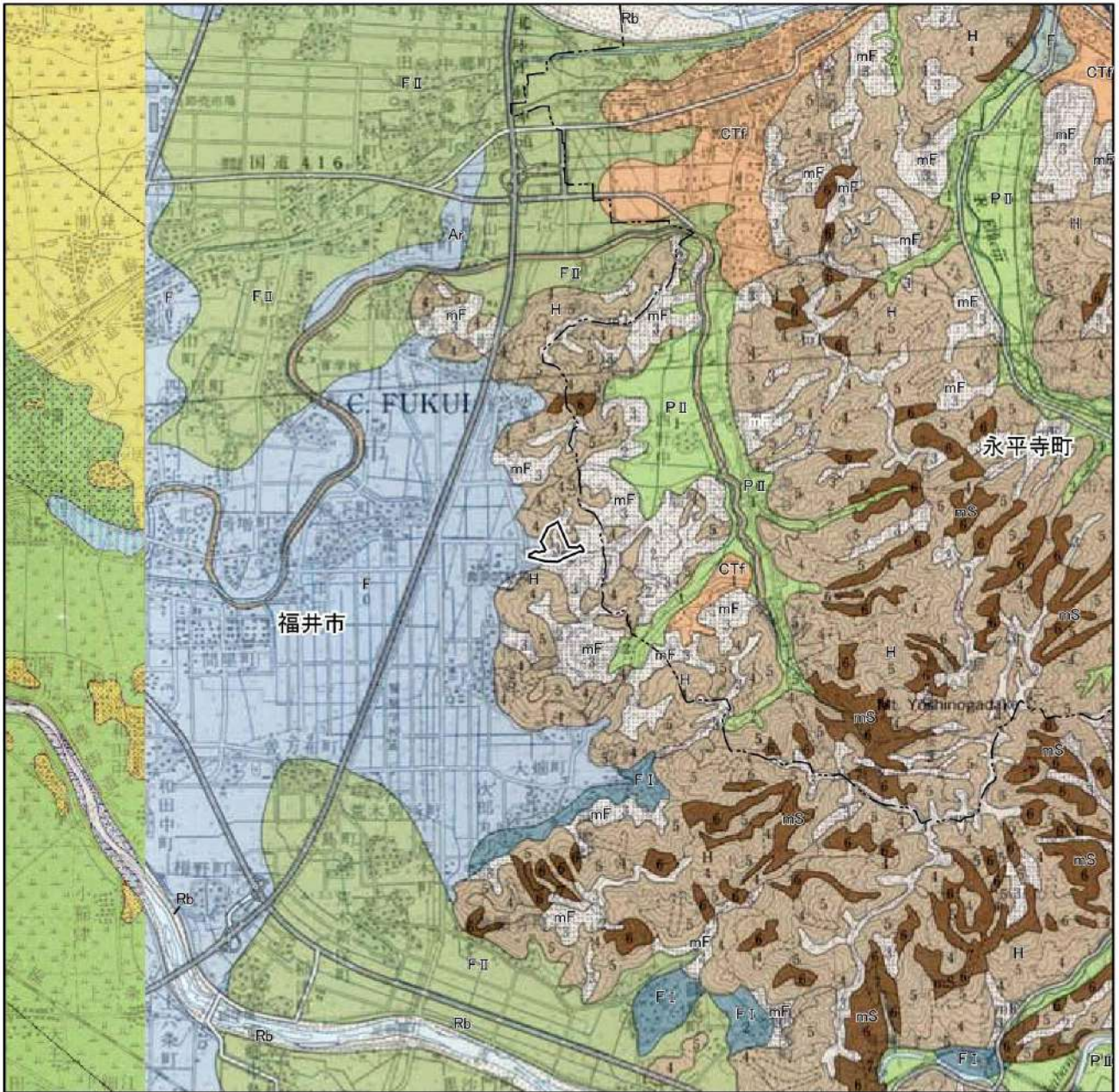
対象事業実施区域及びその周囲における表層地質の分布状況は、図 4.1-19に示すとおりである。

低地部の九頭竜川及び足羽川沿いの扇状地は未固結堆積物の礫・砂・泥が堆積し、その間の氾濫原は砂・泥が堆積している。山地は大部分が安山岩溶岩・石英安山岩溶岩・火砕岩となっている。

対象事業実施区域の表層地質は、安山岩溶岩・石英安山岩溶岩・火砕岩となっている。

3) 特異な地形・地質

対象事業実施区域及びその周囲には、「文化財保護法」（昭和25年法律第214号）に基づく、地形・地質に係る名勝・天然記念物、「自然環境保全調査」（環境庁、昭和51年）によるすぐれた地形・地質及び特異な地形・地質、「日本の地形レッドデータブック 第1集 新装版」（平成12年12月 小泉他）による保存すべき地形、「福井県のすぐれた自然データベース」（福井県ホームページ）によるすぐれた自然（地形・地質）は存在しない。



凡例

- 対象事業実施区域
- 市町界

【福井凡例】

- 低地
- 扇状地・勾配の急な谷底
 - 氾濫平野
 - 自然堤防
 - 異状の洪水時に冠水した部分
 - 旧河道

【永平寺凡例】

- | | |
|--|--|
| <p>山地</p> <ul style="list-style-type: none"> 山腹・山麓緩斜面(15度未満) 一般斜面(15~30度) 急斜面(30度以上) <p>段丘</p> <ul style="list-style-type: none"> 河岸段丘低位面・旧扇状地 | <p>低地</p> <ul style="list-style-type: none"> 谷底平野Ⅱ(谷幅の狭いもの) 扇状地Ⅰ(急) 扇状地Ⅱ(緩) 氾濫原 旧河道 河原 河川・ため池 |
|--|--|

色凡例区分



出典1: 「土地分類基本調査図 地形分類図 福井」
(昭和46年3月、経済企画庁)
出典2: 「土地分類基本調査図 地形分類図 永平寺」
(昭和63年・平成元年、福井県)

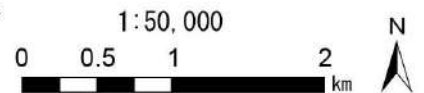
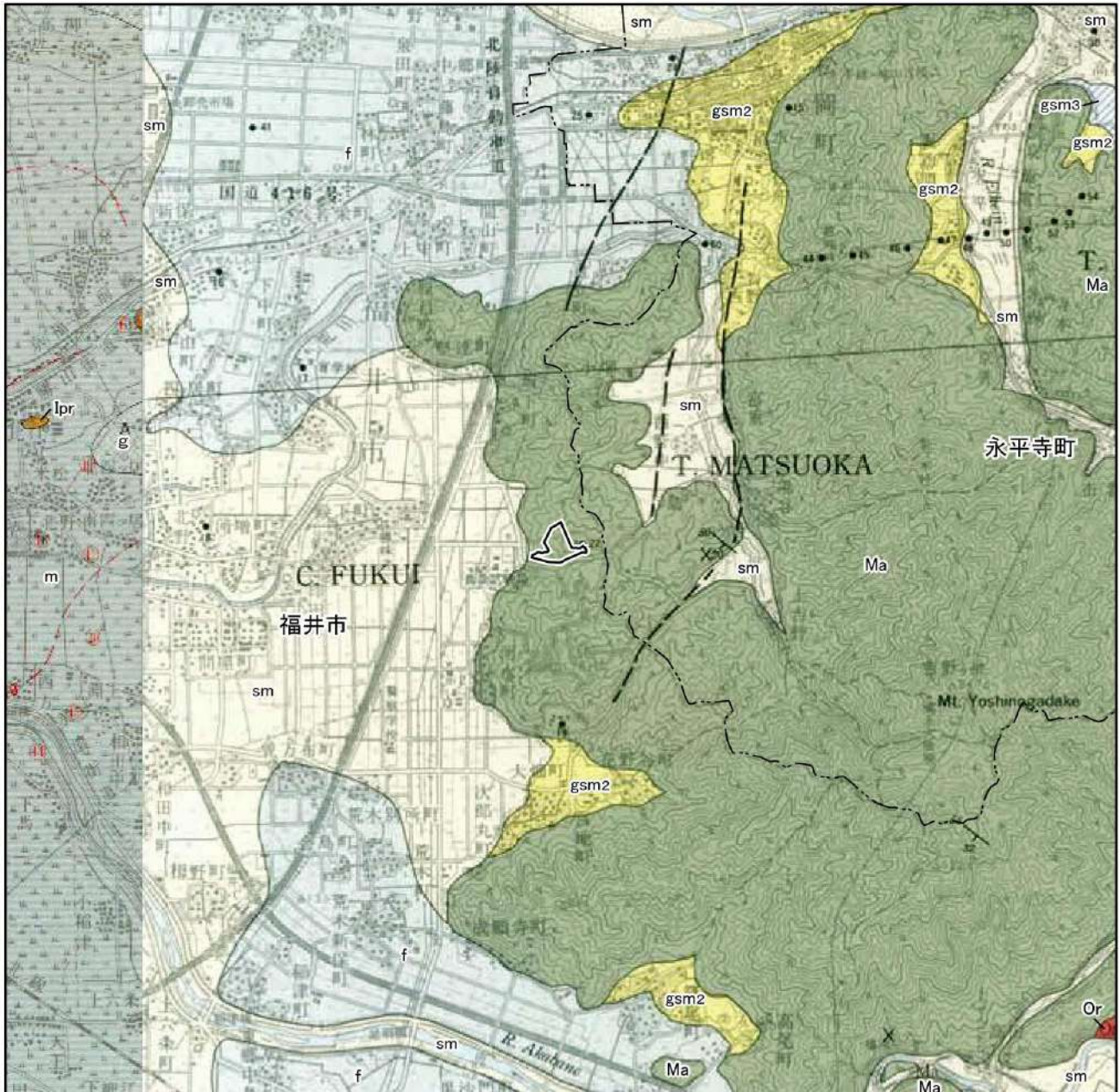


図 4.1-18 地形分類図



凡例

対象事業実施区域

市町界

【福井凡例】

未固結堆積物

- 礫がち堆積物
- 泥がち堆積物

固結堆積物及び
火山性岩石

- 変質安山岩

断層

【永平寺凡例】

未固結堆積物

- 砂・泥(低地・平野堆積物)
- 礫・砂・泥(扇状地堆積物)
- 礫・砂・泥Ⅲ(段丘堆積物)
- 礫・砂・泥Ⅱ(段丘堆積物・小扇状地堆積物)

固結堆積物及び火山性岩石

- 安山岩溶岩・石英安山岩溶岩・火砕岩
(古期安山岩・的川火山岩類)
- 流紋岩溶岩・火砕岩(面谷流紋岩類)

断層

色凡例区分



出典1: 「土地分類基本調査図 表層地質図 福井」
(昭和46年3月、経済企画庁)
出典2: 「土地分類基本調査図 表層地質図 永平寺」
(昭和63年・平成元年、福井県)

1:50,000



図 4.1-19 表層地質図

4.1.6 植物及び動物の状況

(1) 植物の状況

1) 植物の生育状況

植物相について既存資料調査を行い整理した。

確認した文献等は表 4.1-33に示すとおりである。

表 4.1-33 植物種の確認文献等

番号	文献名	整理の対象とした種
1	「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」(平成28年3月 福井県)	調査対象とした野生植物種のうち、文献や、平成24年～平成26年の現地調査等により福井市、永平寺町で確認されている種
2	いきものログ(環境省生物多様性センターホームページ)	調査対象とした野生植物種のうち、昭和55年以降に福井市、永平寺町で確認されている種
3	「福井県のすぐれた自然 植生編」(平成11年3月 福井県)	調査対象とした野生植物種のうち、文献や、平成4年～平成10年の現地調査等により福井市、永平寺町で確認されている種

2) 注目すべき種の状況

文献調査で確認された種について、表 4.1-34に示す国、福井県、福井市及び永平寺町が指定する選定根拠に基づき注目すべき種の指定状況を整理した。

重要な植物種は、表 4.1-35に示すとおり、福井市では226種、永平寺町では69種の注目すべき種が確認されている。

表 4.1-34 注目すべき植物種の選定基準

選定基準		カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)	国指定特別天然記念物(国特) 国指定天然記念物(国天)
	「福井県文化財保護条例」(昭和34年 条例第39号)	県指定天然記念物(県天)
	「福井市文化財保護条例」(昭和25年 条例第24号)	福井市指定天然記念物(市天)
	「永平寺町文化財保護条例」(平成18年 条例第95号)	永平寺町指定天然記念物(町天)
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年 法律第75号)及び同施行令(平成5年政令第17号)	国内希少野生動植物種(国内) 国際希少野生動植物種(国際) 特定第一種国内希少野生動植物種(特一) 特定第一種国内希少野生動植物種(特二) 緊急指定種(緊急)
③	「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト(環境省レッドリスト2020)」維管束植物(令和2年3月 環境省)	絶滅(EX) 野生絶滅(EW) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 地域個体群(LP)
④	「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」(平成28年3月 福井県)	県域絶滅(絶滅) 県域絶滅危惧Ⅰ類(Ⅰ類) 県域絶滅危惧Ⅱ類(Ⅱ類) 県域準絶滅危惧(準絶) 要注目(要注) 絶滅のおそれのある地域個体群(地域)

表 4.1-35(1) 注目すべき植物種の状況

番号	科名	種名	選定基準				確認地	
			①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
1	ヒカゲノカズラ	ミズスギ				要注	○	
2	イワヒバ	タチクラマゴケ				要注	○	○
3		ヒモカズラ				準絶		○
4	トクサ	ミズドクサ				Ⅱ類	○	
5	ハナヤスリ	アカハナワラビ				要注	○	
6		ナガホノナツノハナワラビ				準絶	○	
7		コハナヤスリ				Ⅱ類	○	○
8	コバノイシカグマ	オウレンシダ				要注	○	
9	ミズワラビ	エチゼンシノブ				Ⅰ類	○	
10	シシラン	タキミシダ			EN	Ⅰ類	○	○
11	イノモトソウ	マツザカシダ				要注	○	
12	シシガシラ	コモチシダ				準絶	○	
13	オンダ	カナワラビ				Ⅰ類	○	
14		ナガバヤブソテツ				要注	○	○
15		ヒロハヤブソテツ				Ⅱ類	○	
16		マルバベニシダ				要注	○	○
17		ヌカイタチシダモドキ				Ⅱ類	○	
18	メシダ	トゲカラクサイヌワラビ				Ⅰ類	○	
19		ヘラシダ				要注	○	
20	ウラボシ	ヒメサジラン				要注	○	
21	サンショウモ	サンショウモ			VU	Ⅰ類	○	
22	アカウキクサ	オオアカウキクサ			EN	Ⅰ類	○	
23	スギ	コウヤマキ				要注	○	
24	ヒノキ	ハイネズ				Ⅱ類	○	
25	イチイ	キャラボク				準絶		○
26	ブナ	ツクバネガシ				要注	○	
27	ヤドリギ	マツグミ				Ⅱ類	○	
28	タデ	ホソバイヌタデ			NT	Ⅱ類	○	
29		サデクサ				Ⅰ類	○	
30		ネバリタデ				要注	○	
31		ニオイタデ				要注	○	
32		ノダイオウ			VU	Ⅰ類	○	○
33	ナデシコ	ハマナデシコ				準絶	○	
34		ハマハコベ				Ⅰ類	○	
35	アカザ	ホソバハマアカザ				要注	○	
36		カワラアカザ				要注	○	
37	ヒユ	ヤナギイノコヅチ				要注	○	○
38	キンポウゲ	アズマイチゲ				要注	○	
39		アズマシロカネソウ				準絶	○	
40		オキナグサ			VU	絶滅	○	
41		バイカモ				準絶		○
42		マンセンカラマツ			EN	Ⅰ類	○	○

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、

特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類）、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）

絶滅：県域絶滅、Ⅰ類：県域絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類：県域絶滅危惧Ⅱ類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目

地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（平成30年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

表 4.1-35(2) 注目すべき植物種の状況

番号	科名	種名	選定基準				確認地	
			①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
43	スイレン	ジュンサイ				準絶	○	
44		コウホネ				準絶	○	
45	マツモ	マツモ				Ⅱ類	○	○
46	ドクダミ	ハンゲショウ				準絶	○	
47	ウマノスズクサ	ウマノスズクサ				準絶	○	○
48		フタバアオイ				要注	○	
49	オトギリソウ	ヒメオトギリ				Ⅱ類	○	○
50	モウセンゴケ	モウセンゴケ				要注	○	○
51	ケシ	キケマン				準絶	○	
52	アブラナ	イワハタザオ				要注	○	
53		ミズタガラシ				準絶	○	
54		オオユリワサビ				Ⅱ類	○	
55		ユリワサビ				Ⅰ類	○	
56	ベンケイソウ	ミツバベンケイソウ				準絶	○	
57		ミヤママンネングサ				準絶		○
58	ユキノシタ	タチネコノメソウ				準絶		○
59		タコノアシ			NT	Ⅰ類	○	
60		ヤブサンザシ				準絶	○	
61		ウチワダイモンジソウ				準絶	○	
62	バラ	カワラサイコ				Ⅰ類	○	
63		シロミノヤブヘビイチゴ				Ⅰ類	○	
64		ハマナス				Ⅱ類	○	
65		コジキイチゴ				要注	○	
66		カライトソウ				準絶		○
67		ワレモコウ				Ⅱ類	○	
68		ユキヤナギ				要注	○	
69		コゴメウツギ				Ⅱ類	○	
70		マメ	モメンヅル				要注	
71	サイカチ					Ⅰ類		○
72	ニワフジ					要注	○	○
73	エゾノレンリソウ					Ⅰ類	○	
74	ケハギ					Ⅱ類		○
75	ツルフジバカマ					要注	○	○
76	エビラフジ					要注	○	
77	トウダイグサ	トウダイグサ				準絶	○	
78		ニシキソウ				準絶	○	
79	ミカン	フユザンショウ				Ⅱ類	○	
80	ムクロジ	モクゲンジ				Ⅱ類	○	
81	ニシキギ	イワウメヅル				Ⅱ類	○	
82		ニシキギ				準絶	○	○
83	クロウメモドキ	エゾノクロウメモドキ				要注	○	
84	ジンチョウゲ	ナニワズ				準絶	○	

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、

特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類）、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）

絶滅：県域絶滅、Ⅰ類：県域絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類：県域絶滅危惧Ⅱ類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目

地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（平成30年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

表 4.1-35(3) 注目すべき植物種の状況

番号	科名	種名	選定基準				確認地	
			①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
85	スマレ	カラスシキミ				要注		○
86		アカネスミレ				要注	○	
87		イソスミレ			VU	Ⅱ類	○	
88		ヒゴスミレ				要注	○	
89	ミゾハコベ	ミゾハコベ				要注	○	
90		エゾミソハギ				Ⅱ類	○	○
91		ミズマツバ			VU	準絶	○	○
92	アカバナ	ウスゲチョウジタデ			NT	Ⅱ類	○	
93		ミズユキノシタ				要注	○	○
94	アリノトウグサ	ホザキノフサモ				要注	○	○
95	セリ	セリモドキ				準絶	○	
96		ハマボウフウ				準絶	○	
97		ハナウド				Ⅰ類	○	○
98		オオバチドメ				Ⅱ類	○	
99		カノツメソウ				準絶	○	
100	イチヤクソウ	ウメガサソウ				準絶	○	
101		シヤクジョウソウ				Ⅱ類	○	
102	ツツジ	ウラジロヨウラク				Ⅱ類		○
103		アラゲナツハゼ				要注		○
104	サクラソウ	ギンレイカ				Ⅱ類	○	○
105		クサレダマ				Ⅰ類	○	
106	カキノキ	リュウキュウマメガキ				要注	○	○
107	マチン	アイナエ				Ⅱ類	○	
108	リンドウ	リンドウ				準絶	○	
109	キョウチクトウ	チョウジソウ			NT	Ⅰ類	○	
110	ガガイモ	フナバラソウ			VU	Ⅰ類	○	
111		スズサイコ			NT	Ⅱ類	○	
112		コバノカモメヅル				準絶	○	
113		シロバナカモメヅル				準絶	○	
114		コカモメヅル				Ⅱ類		○
115	アカネ	キバナカワラマツバ				Ⅱ類	○	
116		オオキヌタソウ				要注	○	○
117	クマツヅラ	クマツヅラ				Ⅰ類	○	
118	アワゴケ	アワゴケ				要注	○	
119		ミズハコベ				Ⅱ類	○	
120	シソ	ミズネコノオ			NT	Ⅰ類	○	
121		ミズトラノオ			VU	Ⅰ類	○	
122		メハジキ				準絶	○	○
123		キセワタ			VU	Ⅰ類	○	
124		タテヤマウツボグサ				準絶		○
125		ハイタムラソウ				Ⅰ類	○	
126		ヒメナミキ				Ⅰ類	○	

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、

特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類）、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）

絶滅：県域絶滅、Ⅰ類：県域絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類：県域絶滅危惧Ⅱ類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目

地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（平成30年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

表 4.1-35(4) 注目すべき植物種の状況

番号	科名	種名	選定基準				確認地	
			①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
127	シソ	デワノタツナミソウ				準絶	○	
128	ナス	オオマルバノホロシ				準絶	○	
129	ゴマノハグサ	アブノメ				準絶	○	
130		オオアブノメ			VU	I類	○	
131		シソクサ				II類	○	
132		シオガマギク				要注	○	
133		ヒナノウスツボ				要注	○	
134		エゾヒナノウスツボ				I類	○	
135		オオヒナノウスツボ				要注	○	
136		ヒヨクソウ				要注	○	
137		エチゴトラノオ				II類	○	
138		カワヂシャ			NT	II類	○	○
139	ゴマ	ヒシモドキ			EN	絶滅	○	
140	ハマウツボ	ナンバンギセル				要注	○	
141		ハマウツボ			VU	I類	○	
142	タヌキモ	イヌタヌキモ			NT	準絶	○	
143	オオバコ	トウオオバコ				要注	○	
144	スイカズラ	カンボク				準絶	○	
145	レンブクソウ	レンブクソウ				準絶	○	
146	オミナエシ	オミナエシ				I類	○	○
147	マツムシソウ	ナベナ				I類	○	○
148	キキョウ	ヒメシヤジン				II類	○	
149		キキョウ			VU	I類	○	○
150		ヒナギキョウ				要注	○	○
151	キク	ワカサハマギク			NT	II類	○	
152		フジバカマ			NT	I類	○	○
153		アキノハハコグサ			EN	I類	○	○
154		カセンソウ				準絶	○	
155		コオニタビラコ				I類	○	○
156		ネコノシタ				II類	○	
157		オモダカ	サジオモダカ				I類	○
158	マルバオモダカ				VU	絶滅	○	
159	アギナシ				NT	II類	○	
160	トチカガミ	ヤナギスブタ				準絶	○	○
161		クロモ				II類	○	
162		トチカガミ			NT	I類	○	
163		ミズオオバコ			VU	II類	○	
164	ヒルムシロ	ヒルムシロ				II類	○	
165		センニンモ				II類	○	
166		ササバモ				準絶	○	
167		ホソバミズヒキモ				II類	○	○
168	アマモ	エビアマモ			NT	要注	○	

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、

特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類（CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類）、VU：絶滅危惧II類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）

絶滅：県絶滅、I類：県絶滅危惧I類、II類：県絶滅危惧II類、準絶：県準絶滅危惧、要注：要注目

地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（平成30年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

表 4.1-35(5) 注目すべき植物種の状況

番号	科名	種名	選定基準				確認地	
			①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
169	イバラモ	ホッサモ				Ⅱ類	○	
170		イトトリゲモ			NT	Ⅱ類	○	
171		イバラモ				Ⅰ類		○
172	ユリ	ヒメニラ				Ⅱ類	○	
173		ヤマラッキョウ				Ⅰ類	○	
174		ヒロハノアマナ			VU	Ⅰ類	○	
175		キバナノアマナ				Ⅰ類	○	○
176		ノカンゾウ				Ⅱ類	○	
177		キチジョウソウ				準絶	○	
178		オモト				準絶	○	
179		マルバサンキライ				Ⅰ類	○	
180		サクライソウ			EN	Ⅰ類		○
181		ミズアオイ	ミズアオイ			NT	Ⅰ類	○
182	アヤメ	ヒオウギ				Ⅰ類	○	
183		ノハナショウブ				Ⅱ類	○	○
184		カキツバタ			NT	Ⅱ類	○	
185	イグサ	ハナビゼキショウ				準絶		○
186		ドロイ				要注	○	
187		タチコウガイゼキショウ				準絶	○	
188		イヌイ				Ⅰ類	○	
189		アサギスズメノヒエ				要注	○	
190	ホシクサ	ホシクサ				準絶	○	○
191		イヌノヒゲ				要注	○	
192	イネ	オガルカヤ				Ⅱ類	○	○
193		エチゼンインヨウ				Ⅰ類	○	
194		テンキグサ				要注	○	
195		トキワススキ				Ⅱ類	○	○
196		アイアシ				Ⅱ類	○	
197		セイタカヨシ				要注	○	
198		メガルカヤ				Ⅰ類	○	
199		サトイモ	ショウブ				要注	○
200	ヒロハテンナンショウ					要注	○	○
201	ミズバショウ					要注	○	
202	オオハング					Ⅱ類	○	
203	ミクリ	ミクリ			NT	Ⅱ類	○	○
204		ナガエミクリ			NT	準絶	○	
205	ガマ	コガマ				準絶	○	
206	カヤツリグサ	コウキヤガラ				準絶	○	
207		イトテンツキ			NT	要注	○	
208		チャシバダ				要注		○
209		タニガワダ				要注		○
210		ヤガミスダ				Ⅱ類	○	
211		タチスダ				要注	○	

【重要な種の選定基準】

- ①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③「環境省レッドリスト2020」（環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類）、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）
絶滅：県域絶滅、Ⅰ類：県域絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類：県域絶滅危惧Ⅱ類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目
地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（平成30年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

表 4.1-35(6) 注目すべき植物種の状況

番号	科名	種名	選定基準				確認地		
			①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町	
212	カヤツリグサ	キノクニスゲ			NT	Ⅱ類	○		
213		ノゲヌカスゲ				要注	○	○	
214		シラコスゲ				準絶	○		
215		シオクグ				準絶	○		
216		センダイスゲ				要注	○		
217		ヒメモエギスゲ				要注	○		
218		ヒメアオガヤツリ				準絶	○		
219		シロガヤツリ				準絶	○		
220		ヒメガヤツリ				要注	○		
221		ヒメハリイ				I類	○		
222		イソヤマテンツキ				要注	○		
223		ビロードテンツキ				I類	○		
224		イヌノハナヒゲ				要注	○		
225		フトイ				要注	○		
226		タイワンヤマイ				準絶	○		
227		マツカサススキ				I類	○		
228		ラン	エビネ			NT	Ⅱ類	○	
229			ナツエビネ			VU	Ⅱ類	○	○
230	キエビネ				EN	I類	○		
231	ギンラン					Ⅱ類	○		
232	キンラン				VU	Ⅱ類	○	○	
233	カキラン					要注	○	○	
234	クロヤツシロラン					Ⅱ類	○		
235	アケボノシュスラン					要注	○		
236	ミズトンボ				VU	Ⅱ類	○		
237	ホクリクムヨウラン					Ⅱ類	○		
238	セイタカスズムシソウ					I類	○		
239	ジガバチソウ					I類	○		
240	クモキリソウ					要注	○	○	
241	スズムシソウ					I類	○		
242	コ克蘭					Ⅱ類	○		
243	ウチョウラン				VU	I類		○	
244	コケイラン					要注	○		
245	ジンバイソウ					要注	○	○	
246	ヒトツボクロ				I類	○	○		
合計	87科	246種	0種	0種	46種	246種	226種	69種	

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、

特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類）、VU：絶滅危惧Ⅱ類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）

絶滅：県域絶滅、Ⅰ類：県域絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類：県域絶滅危惧Ⅱ類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目

地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（平成30年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

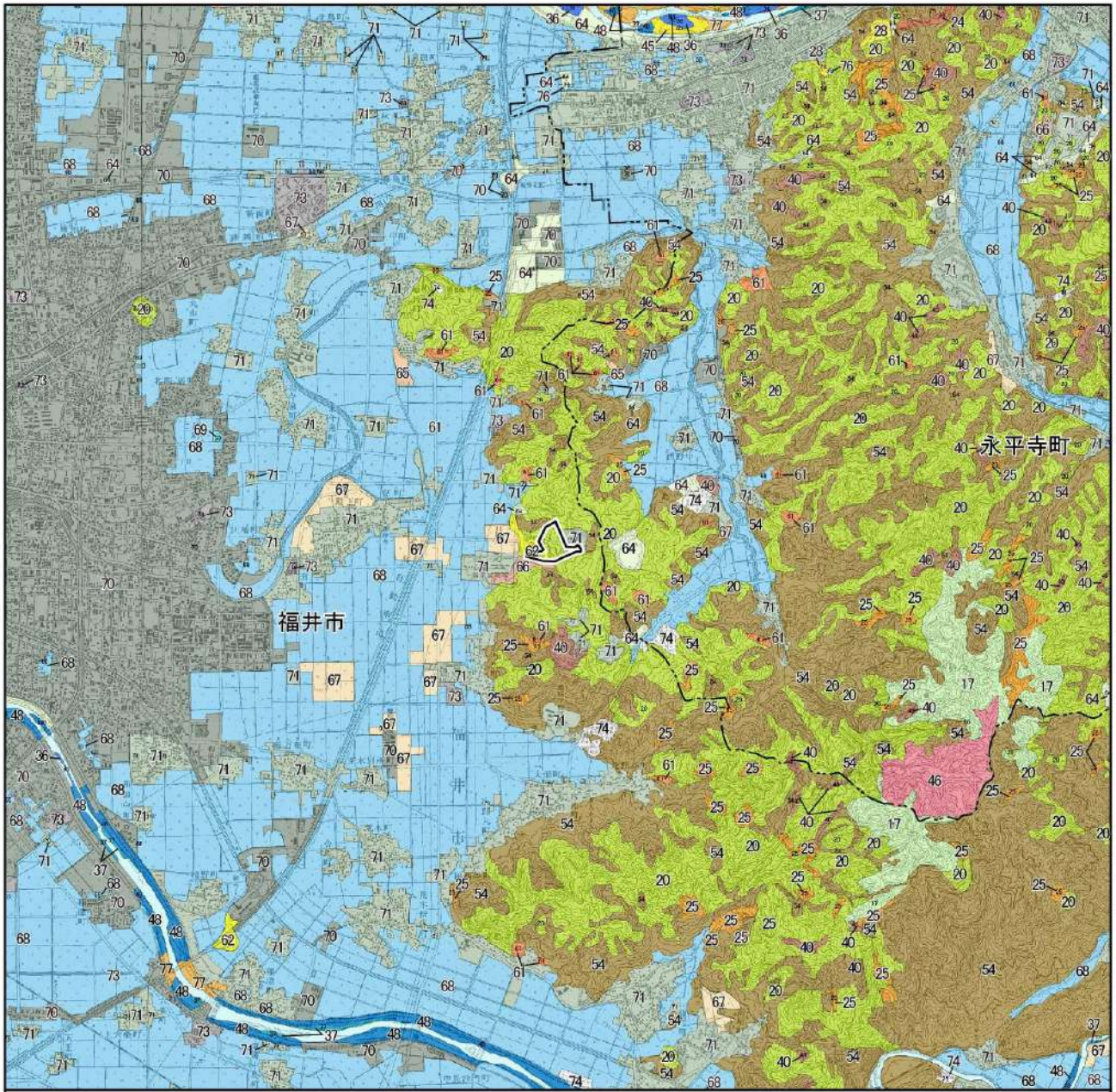
3) 植生の状況

対象事業実施区域及びその周囲は、福井市の中央を流れる足羽川と、福井市と永平寺町の北方を東西に流れる九頭竜川に挟まれた地域で、西側には福井市の市街地が続き、東側は山地が広がっている。

対象事業実施区域及びその周囲の植生の状況は図 4.1-20に示すとおりであり、低地の大部分は「放棄水田雑草群落」が広がり、西側には「市街地」や「緑の多い住宅地」が分布している。また中央部分から東側の山地は、「ユキグニミツバツツジーコナラ群集」の中に、沢筋の斜面を中心に「スギ・ヒノキ・サワラ植林」が樹枝状に分布している。また、川によって開析された谷底平野には「放棄水田雑草群落」が分布している。

対象事業実施区域は「ユキグニミツバツツジーコナラ群集」が分布している。

なお、対象事業実施区域及びその周辺には、「福井県のすぐれた自然 植生編」（平成11年3月 福井県）に記載されているすぐれた植生の記録はない。



凡例

- | | | | | | |
|--|---------------------|--|-----------------|--|-------------|
| | 対象事業実施区域 | | 市町界 | | |
| | 17 オオバクロモジ・ミズナラ群集 | | 46 伐採跡地群落(VII) | | 68 水田雑草群落 |
| | 20 ユキグニツバツツジ・コナラ群集 | | 48 ヨシクラス | | 69 放棄水田雑草群落 |
| | 24 アカマツ群落 | | 54 スギ・ヒノキ・サワラ植林 | | 70 市街地 |
| | 25 落葉広葉低木群落 | | 61 竹林 | | 71 緑の多い住宅地 |
| | 28 ススキ群団(V) | | 62 ゴルフ場・芝地 | | 73 工場地帯 |
| | 36 ヤナギ高木群落(VI) | | 64 路傍・空地雑草群落 | | 74 造成地 |
| | 37 ヤナギ低木群落(VI) | | 65 放棄畑雑草群落 | | 76 開放水域 |
| | 40 ユキグニツバツツジ・アカマツ群集 | | 66 果樹園 | | 77 自然裸地 |
| | 45 ススキ群団(VII) | | 67 畑雑草群落 | | |

出典：「1/2.5万 現存植生図「越前森田」「丸岡」「福井」「永平寺」
 (環境省生物多様性センター 自然環境Web-GIS)

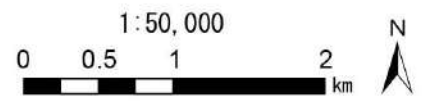


図 4.1-20 現存植生図

(2) 動物の状況

1) 動物の生息状況

動物相について既存資料調査を行い整理した。

参考とした文献等は表 4.1-36に示すとおりである。

表 4.1-36 動物種の確認文献等

番号	文献名	整理の対象とした種
1	「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」(平成28年3月 福井県)	調査対象とした野生動物種のうち、文献や、平成24年～平成26年の現地調査等により福井市、永平寺町で確認されている種
2	いきものログ(環境省生物多様性センターホームページ)	調査対象とした野生動物種のうち、1980年以降に福井市、永平寺町で確認されている種
3	「福井県のすぐれた自然 動物編」(平成11年3月 福井県)	調査対象とした野生動物種のうち、文献や、平成4年～平成10年の現地調査等により福井市、永平寺町で確認されている種

2) 注目すべき種の状況

文献調査で確認された種について、表 4.1-37に示す国、福井県、福井市及び永平寺町が指定する選定根拠に基づき注目すべき種の指定状況を整理した。

表 4.1-37 注目すべき動物種の選定基準等

	選定基準	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)	国指定特別天然記念物(国特) 国指定天然記念物(国天)
	「福井県文化財保護条例」(昭和34年 条例第39号)	県指定天然記念物(県天)
	「福井市文化財保護条例」(昭和25年 条例第24号)	福井市指定天然記念物(市天)
	「永平寺町文化財保護条例」(平成18年 条例第95号)	永平寺町指定天然記念物(町天)
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(種の保存法)」(平成4年 法律第75号)及び同施行令(平成5年政令第17号)	国内希少野生動植物種(国内) 国際希少野生動植物種(国際) 特定第一種国内希少野生動植物種(特一) 特定第一種国内希少野生動植物種(特二) 緊急指定種(緊急)
③	「絶滅のおそれのある野生生物の種のリスト(環境省レッドリスト2020)」 哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類 (令和2年3月 環境省)	絶滅(EX) 野生絶滅(EW) 絶滅危惧ⅠA類(CR) 絶滅危惧ⅠB類(EN) 絶滅危惧Ⅱ類(VU) 準絶滅危惧(NT) 情報不足(DD) 絶滅のおそれのある地域個体群(LP)
④	「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」(平成28年3月 福井県)	県域絶滅(絶滅) 県域絶滅危惧Ⅰ類(Ⅰ類) 県域絶滅危惧Ⅱ類(Ⅱ類) 県域準絶滅危惧(準絶) 要注目(要注) 絶滅のおそれのある地域個体群(地域)

(a) 哺乳類

文献調査で確認された注目すべき哺乳類は、表 4.1-38に示すとおり 5 種である。福井市では 5 種が確認されている。

表 4.1-38 注目すべき哺乳類の状況

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地	
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
1	コウモリ	ヒナコウモリ	モモジロコウモリ				準絶	○	
2			ユビナガコウモリ				準絶	○	
3			テングコウモリ				II類	○	
4	リス	リス	ムササビ				要注	○	
5		ネズミ	カヤネズミ				準絶	○	
計	2目	3科	5種	0種	0種	0種	5種	5種	0種

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、

特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧 I 類（CR：絶滅危惧 I A類、EN：絶滅危惧 I B類）、VU：絶滅危惧 II 類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年 3月 福井県）

絶滅：県域絶滅、I類：県域絶滅危惧 I 類、II類：県域絶滅危惧 II 類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目

地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（令和元年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

(b) 鳥類

文献調査で確認された注目すべき鳥類は、表 4.1-39に示すとおり88種である。福井市では86種、永平寺町では18種が確認されている。

表 4.1-39(1) 注目すべき鳥類の状況

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地	
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
1	キジ	キジ	ウズラ			VU	II類	○	
2	カモ	カモ	マガン	国天		NT	II類	○	
3			コハクチョウ				準絶	○	
4			オオハクチョウ				準絶	○	
5			オシドリ			DD	II類	○	
6			シマアジ				準絶	○	
7			トモエガモ			VU	II類	○	
8			アカツクシガモ			DD	要注	○	
9			ホオジロガモ				要注	○	
10			カワアイサ				要注	○	○
11			ウミアイサ				準絶	○	
12			カイツブリ	カイツブリ	カンムリカイツブリ				要注
13	コウノトリ	コウノトリ	コウノトリ	国特	国内	CR	I類	○	
14	カツオドリ	ウ	ヒメウ			EN	要注	○	
15	ペリカン	サギ	ヨシゴイ			NT	I類	○	
16			オオヨシゴイ		国内	CR	I類	○	
17			ミゾゴイ			VU	I類	○	
18			ササゴイ				II類	○	
19			チュウサギ			NT	準絶	○	○
20			コサギ				II類	○	○
21			クロサギ				準絶	○	
22				トキ	トキ	国特	国内	CR	絶滅
23	ツル	クイナ	クイナ				要注	○	
24			ヒクイナ			NT	I類	○	
25	ヨタカ	ヨタカ	ヨタカ			NT	II類	○	
26	アマツバメ	アマツバメ	ハリオアマツバメ				要注	○	○
27	チドリ	チドリ	タゲリ				準絶	○	
28			イカルチドリ				準絶	○	
29			コチドリ				要注	○	○
30			シロチドリ			VU	I類	○	
31			メダイチドリ			国際	要注	○	
32			セイタカシギ	セイタカシギ			VU	準絶	○
33		シギ	ヤマシギ				準絶	○	
34			アオシギ				準絶	○	
35			オオジシギ			NT	II類	○	
36			オグロシギ				準絶	○	

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、

特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」(環境省)

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類 (CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類)、VU：絶滅危惧II類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」(平成28年3月 福井県)

絶滅：県域絶滅、I類：県域絶滅危惧I類、II類：県域絶滅危惧II類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目

地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「日本鳥類目録 改訂第7版」(平成24年 日本鳥学会)に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

表 4.1-39(2) 注目すべき鳥類の状況

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地			
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町		
37	チドリ	シギ	ダイシャクシギ				要注	○			
38			ホウロクシギ		国際	VU	Ⅱ類	○			
39			ツルシギ				VU	準絶	○		
40			コアオアシシギ					準絶	○		
41			アオアシシギ					要注	○		
42			タカブシギ				VU	要注	○	○	
43			ソリハシシギ					要注	○		
44			イソシギ					要注	○	○	
45			オバシギ			国際		要注	○		
46			ミュビシギ					要注	○		
47			オジロトウネン					要注	○		
48			ウズラシギ					要注	○		
49			ハマシギ				NT	要注	○		
50			エリマキシギ					要注	○		
51			タマシギ	タマシギ			VU	Ⅰ類	○		
52			ツバメチドリ	ツバメチドリ			VU	要注	○		
53			カモメ	ウミネコ				地域	○		
54				コアジサシ			VU	Ⅰ類	○		
55			ウミスズメ	ウミガラス		国内	CR	要注	○		
56				ウミスズメ			CR	要注	○		
57			タカ	ミサゴ	ミサゴ			NT	準絶	○	
58				タカ	チュウヒ		国内	EN	Ⅱ類	○	
59					ツミ				準絶	○	
60					オオタカ				NT	Ⅰ類	○
61				サシバ				VU	準絶	○	○
62				クマタカ			国内	EN	Ⅰ類	○	○
63	フクロウ	フクロウ	オオコノハズク				準絶	○	○		
64			コノハズク				準絶		○		
65			アオバズク					Ⅱ類	○		
66			トラフズク					準絶	○	○	
67			コミミズク					準絶	○		
68	ブッポウソウ	カワセミ	アカショウビン				準絶	○	○		
69			ヤマセミ				Ⅰ類	○			
70		ブッポウソウ	ブッポウソウ			EN	Ⅰ類	○			
71	キツツキ	キツツキ	アリスイ				準絶	○			
72			オオアカゲラ				準絶	○			
73	ハヤブサ	ハヤブサ	チョウゲンボウ				要注	○			
74			ハヤブサ		国内	VU	Ⅱ類	○			
75	スズメ	ヤイロチョウ	ヤイロチョウ		国内	EN	Ⅰ類	○			
76		サンショウクイ	サンショウクイ			VU	要注	○	○		
77		カササキヒタキ	サンコウチョウ				要注	○			
78		モズ	チゴモズ			CR	Ⅰ類	○			
79		カラス	オナガ				要注	○			

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類（CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類）、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）

絶滅：県域絶滅、Ⅰ類：県域絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類：県域絶滅危惧Ⅱ類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目
地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年 日本鳥学会）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

表 4.1-39(3) 注目すべき鳥類の状況

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地	
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
80	スズメ	カラス	カササギ				要注	○	
81		ツバメ	コシアカツバメ				準絶	○	○
82		セッカ	セッカ				要注	○	
83		ムクドリ	コムクドリ				準絶	○	
84		ヒタキ	マミジロ				要注		○
85			コサメビタキ				準絶	○	
86		イワヒバリ	カヤクグリ				要注	○	
87		ホオジロ	ホオアカ				要注	○	○
88			ノジコ			NT	II類	○	
計	16目	35科	88種	3種	11種	37種	88種	86種	18種

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類（CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類）、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）

絶滅：県域絶滅、I類：県域絶滅危惧I類、II類：県域絶滅危惧II類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「日本鳥類目録 改訂第7版」（平成24年 日本鳥学会）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

(c) 爬虫類

文献調査で確認された注目すべき爬虫類は、表 4.1-40に示すとおり 5 種である。福井市では 5 種、永平寺町では 3 種が確認されている。

表 4.1-40 注目すべき爬虫類の状況

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地	
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
1	カメ	イシガメ	ニホンイシガメ			NT	準絶	○	○
2		スッポン	ニホンスッポン			DD	準絶	○	○
3	有鱗目	タカチホヘビ	タカチホヘビ				要注	○	
4		ナミヘビ	シロマダラ				要注	○	
5			ヒバカリ				要注	○	○
計	2目	4科	5種	0種	0種	2種	5種	5種	3種

【重要な種の選定基準】

- ①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③「環境省レッドリスト2020」(環境省)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 (CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類)、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」(平成28年3月 福井県)
絶滅：県域絶滅、Ⅰ類：県域絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類：県域絶滅危惧Ⅱ類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」(令和元年 国土交通省)に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

注3：海域に生息する爬虫類は除外している。

(d) 両生類

文献調査で確認された注目すべき両生類は、表 4.1-41に示すとおり 4 種である。福井市では 4 種、永平寺町では 3 種が確認されている。

表 4.1-41 注目すべき両生類の状況

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地	
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
1	有尾目	サンショウウオ	ヒダサンショウウオ			NT	準絶	○	○
2		イモリ	アカハライモリ			NT	要注	○	○
3	無尾目	ヒキガエル	アズマヒキガエル				要注	○	
4		アカガエル	トノサマガエル			NT	要注	○	○
計	2目	4科	4種	0種	0種	3種	4種	4種	3種

【重要な種の選定基準】

- ①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③「環境省レッドリスト2020」(環境省)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 (CR：絶滅危惧ⅠA類、EN：絶滅危惧ⅠB類)、VU：絶滅危惧Ⅱ類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」(平成28年3月 福井県)
絶滅：県域絶滅、Ⅰ類：県域絶滅危惧Ⅰ類、Ⅱ類：県域絶滅危惧Ⅱ類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」(令和元年 国土交通省)に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

(e) 魚類

文献調査で確認された注目すべき魚類は、表 4.1-42に示すとおり22種である。福井市では20種、永平寺町では17種が確認されている。

九頭竜川におけるカマキリの生息地は「アラレガコ生息地」として国の天然記念物に指定されている。

表 4.1-42 注目すべき魚類の状況

	目名	科名	種名	選定基準				確認地	
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
1	ヤツメウナギ	ヤツメウナギ	スナヤツメ南方種			VU	II類	○	○
2			カワヤツメ			VU	II類	○	○
3	ウナギ	ウナギ	ニホンウナギ			EN	I類	○	○
4	コイ	コイ	ヤリタナゴ			NT	要注	○	○
5			イチモンジタナゴ			CR	I類		○
6			ミナミアカヒレタビラ			CR	I類	○	
7		ドジョウ	ドジョウ			NT	要注	○	○
8			アジメドジョウ			VU	II類	○	○
9			ナガレホトケドジョウ			EN	I類		○
10	ナマズ	アカザ	アカザ			VU	II類	○	○
11	サケ	サケ	イワナ				II類	○	
12			サケ				準絶	○	○
13			サクラマス			NT	II類	○	○
14			ヤマメ			NT	II類	○	○
15	ダツ	メダカ	キタノメダカ (メダカ北日本集団)			VU	II類	○	○
16	カサゴ	カジカ	カマキリ(アユカケ) ^注	国天		VU	II類	○	○
17			カジカ大卵型				準絶	○	○
18			カジカ中卵型				II類	○	○
19	スズキ	カワアナゴ	カワアナゴ			NT	要注	○	
20		ハゼ	シマウキゴリ				要注	○	
21			ジュズカケハゼ種群				II類	○	○
22			クロヨシノボリ				II類	○	
計	8目	10科	22種	1種	0種	15種	22種	20種	17種

【重要な種の選定基準】

- ①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③「環境省レッドリスト2020」(環境省)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類 (CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類)、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」(平成28年3月 福井県)
絶滅：県絶滅、I類：県絶滅危惧I類、II類：県絶滅危惧II類、準絶：県準絶滅危惧、要注：要注目
地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注：九頭竜川におけるカマキリの生息地は「アラレガコ生息地」として国の天然記念物に指定されている。

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」(令和元年 国土交通省)に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

(f) 昆虫類

文献調査で確認された注目すべき昆虫類は、表 4.1-43に示すとおり106種である。
福井市では97種、永平寺町では43種が確認されている。

表 4.1-43(1) 注目すべき昆虫類の状況

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地	
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
1	トンボ	イトトンボ	ホソミイトトンボ				準絶	○	
2			モートンイトトンボ			NT	準絶	○	○
3			ムスジイトトンボ					要注	○
4		カワトンボ	アオハダトンボ			NT	準絶	○	
5		ムカシトンボ	ムカシトンボ				要注	○	○
6		ヤンマ	ネアカヨシヤンマ			NT	II類	○	
7			アオヤンマ			NT	準絶	○	
8			マダラヤンマ			NT	要注	○	
9		サナエトンボ	キヒロサナエ			NT	準絶	○	○
10			ホンサナエ				準絶	○	○
11			ナゴヤサナエ			VU	要注	○	
12		エゾトンボ	トラフトンボ				準絶	○	
13			エゾトンボ				要注	○	
14		トンボ	ハッチョウトンボ				要注	○	○
15			マイコアカネ				II類	○	
16			ミヤマアカネ					要注	○
17	カマキリ	カマキリ	ウスバカマキリ			DD	要注	○	
18	カワゲラ	トワダカワゲラ	ミネトワダカワゲラ				要注	○	
19	バッタ	バッタ	アカハネバッタ		国内	CR	絶滅		○
20			ヤマトマダラバッタ				準絶	○	
21			カワラバッタ					I類	○
22	カメムシ	ツチカメムシ	シロヘリツチカメムシ			NT	準絶		○
23		コオイムシ	タガメ		国内	VU	I類	○	○
24	アミガケ	ウスバカゲロウ	コカスリウスバカゲロウ				準絶	○	
25	チョウ	スカシバガ	アシナガモモトスカシバ			VU	要注	○	
26		タテハチョウ	ウラギンスジヒョウモン			VU	II類	○	
27			オオムラサキ			NT	準絶	○	
28		アゲハチョウ	ギフチョウ			VU	準絶	○	○
29		ツトガ	ハマゴウノメイガ				準絶	○	
30		スズメガ	スキバホウジャク			VU	要注	○	○
31		ヒトリガ	マエアカヒトリ			NT	要注	○	
32		ヤガ	コシロシタバ			NT	要注	○	
33			アオモンギンセダカモクメ			NT	II類		○
34			キシタアツバ			NT	要注	○	
35	ハエ	ガガンボ	アヤヘリガガンボ				要注	○	
36			ウスキンマヘリガガンボ					要注	○

【重要な種の選定基準】

- ①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物
- ②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③「環境省レッドリスト2020」(環境省)
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類 (CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類)、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」(平成28年3月 福井県)
絶滅：県域絶滅、I類：県域絶滅危惧I類、II類：県域絶滅危惧II類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目
地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」(令和元年 国土交通省)に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

表 4.1-43(2) 注目すべき昆虫類の状況

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地	
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
37	ハエ	ガガンボ	ヒメハスオビガガンボ				要注	○	
38		ハルカ	ハマダラハルカ			DD	要注	○	
39		カ	トワダオオカ				要注	○	
40	コウチュウ	オサムシ	セアカオサムシ			NT	準絶	○	○
41			オオサカアオゴミムシ			DD	要注	○	
42			オオトックリゴミムシ			NT	要注	○	
43			アスワメクラチビゴミムシ				要注	○	
44		ハンミョウ	カワラハンミョウ			EN	I類	○	
45			アイヌハンミョウ			NT	要注	○	○
46			ホソハンミョウ			VU	準絶	○	
47			マガタマハンミョウ				要注		○
48		ゲンゴロウ	クロゲンゴロウ			NT	準絶	○	○
49			ゲンゴロウ			VU	I類	○	
50			シャープゲンゴロウモドキ		国内	CR	I類	○	
51			シマゲンゴロウ			NT	I類	○	
52			コマルケシゲンゴロウ			NT	I類		○
53			ケシゲンゴロウ			NT	要注	○	○
54			キベリクロヒメゲンゴロウ			NT	要注	○	
55			キベリマメゲンゴロウ			NT	要注	○	○
56	ミズスマシ	オオミズスマシ			NT	II類	○	○	
57		コミズスマシ			EN	要注	○		
58		ミズスマシ			VU	準絶	○		
59		コオナガミズスマシ			VU	要注	○	○	
60	コガシラミズムシ	クビボソコガシラミズムシ			DD	準絶	○		
61	ガムシ	スジヒラタガムシ			NT	要注	○	○	
62		コガムシ			DD	準絶	○	○	
63		ガムシ			NT	準絶	○		
64		シジミガムシ			EN	要注	○		
65	クワガタムシ	オオクワガタ			VU	II類	○		
66	コガネムシ	アカマダラハナムグリ			DD	要注	○		
67	タマムシ	オオムツボシタマムシ				要注	○		
68		サビナカボソタマムシ				要注	○		
69		シナノキチビタマムシ				要注		○	
70	テントウムシ	オシマヒメテントウ				準絶	○		
71	カミキリムシ	スネケブカヒロコバネカミキリ				要注	○		
72		キュウシュウチビトラカミキリ				要注	○		
73		アサカミキリ			VU	要注	○		
74	ゾウムシ	タカハシトゲゾウムシ				要注	○		
75	ハチ	カギバラバチ	ザウターカギバラバチ				II類	○	
76		シリアゲコバチ	オキナワシリアゲコバチ				準絶	○	○
77		セイボウ	ミヤマツヤセイボウ			DD	I類	○	
78		アリ	ケブカツヤオオアリ			DD	II類	○	
79			トゲアリ			VU	要注	○	

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類（CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類）、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）

絶滅：県域絶滅、I類：県域絶滅危惧I類、II類：県域絶滅危惧II類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目
地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（令和元年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

表 4.1-43(3) 注目すべき昆虫類の状況

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地	
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
80	ハチ	ドロバチ	ハグロフタオビドロバチ				II類	○	○
81			フカイオオドロバチ				準絶	○	○
82		スズメバチ	チャイロスズメバチ				要注	○	○
83		クモバチ	キオビクモバチ				要注	○	
84			スギハラクモバチ				要注	○	○
85			フタモンクモバチ				要注	○	○
86			アオスジクモバチ				要注	○	
87		ツチバチ	ウチダハラナガツチバチ				要注	○	○
88		ギングチバチ	キュビギングチ			DD	II類	○	○
89			ガロアギングチ			DD	要注	○	○
90			タケウチギングチ				II類	○	
91			ササキリギングチ			NT	要注	○	○
92			アカオビケラトリバチ				準絶	○	
93			ニトベギングチ				DD	II類	○
94		ドロバチモドキ	ニッポンアワフキバチ			DD	要注	○	
95			ヤマトスナハキバチ			DD	要注	○	
96			ニッポンハナダカバチ			VU	準絶	○	
97			キアシハナダカバチモドキ			VU	I類	○	
98		アリマキバチ	カラトイスカバチ			DD	II類	○	
99		アナバチ	フジジガバチ			NT	II類	○	○
100	フクイアナバチ				NT	準絶	○	○	
101	ヒメハナバチ	コガタホオナガヒメハナバチ				II類	○		
102	ミツバチ	クロマルハナバチ			NT	要注	○	○	
103		イカズチキマダラハナバチ				要注	○		
104	ミツバチ	ナミルリモンハナバチ				要注	○	○	
105	ハキリバチ	クズハキリバチ			DD	要注		○	
106		マイマイツツハナバチ			DD	II類	○	○	
計	10目	51科	106種	0種	3種	64種	106種	97種	43種

【重要な種の選定基準】

- ① 「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物
- ② 「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令
国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種
- ③ 「環境省レッドリスト2020」（環境省）
EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類（CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類）、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群
- ④ 「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）
絶滅：県絶滅、I類：県絶滅危惧I類、II類：県絶滅危惧II類、準絶：県準絶滅危惧、要注：要注目

地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（令和元年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

(g) 貝類

文献調査で確認された注目すべき貝類は、表 4.1-44及び表 4.1-45に示すとおり淡水産貝類が12種、陸産貝類が18種である。

淡水産貝類は福井市では11種、永平寺町では8種が、陸産貝類は福井市では17種、永平寺町では5種が確認されている。

表 4.1-44 注目すべき貝類の状況（淡水産）

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地	
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町
1	アマオブネガイ	アマオブネガイ	イシマキガイ				準絶	○	
2	新生腹足	タニシ	マルタニシ			VU	準絶	○	○
3			オオタニシ			NT	要注	○	○
4	汎有肺	モノアラガイ	コシダカヒメモノアラガイ			DD	要注	○	
5			モノアラガイ			NT	準絶	○	○
6		ヒラマキガイ	ヒラマキミズマイマイ			DD	要注		○
7			ヒラマキガイモドキ			NT	要注	○	○
8	イシガイ	カワシンジュガイ	カワシンジュガイ			EN	絶滅	○	
9		イシガイ	トンガリササノハガイ			VU	I類	○	
10			カタハガイ			VU	II類	○	○
11			マツカサガイ			NT	II類	○	○
12	マルスタレガイ	シジミ	マシジミ			VU	II類	○	○
計	5目	7科	12種	0種	0種	11種	12種	11種	8種

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類（CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類）、VU：絶滅危惧II類、NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）

絶滅：県域絶滅、I類：県域絶滅危惧I類、II類：県域絶滅危惧II類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目

地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（令和元年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

表 4.1-45 注目すべき貝類の状況（陸産）

番号	目名	科名	種名	選定基準				確認地		
				①指定文化財	②種の保存法	③国RL	④県RDB	福井市	永平寺町	
1	新生腹足	イツマデガイ	ニクイロシブキツボ			NT	I類	○		
2	ヘソカドガイ	カワサシショウガイ	ヘソカドガイ				絶滅	○		
3			オオウスイロヘソカドガイ				I類	○		
4	汎有肺	モノアラガイ	ナガオカモノアラガイ			NT	I類	○	○	
5	有肺	キセルガイ	トノサマギセル			NT	II類	○		
6	マイマイ	オマジマイマイ	オオミケマイマイ			VU	II類	○		
7			クチベニマイマイ				要注	○注3		
8			ツルガマイマイ				要注	○	○	
9			ミヤマヒダリマキマイマイ			VU	II類		○	
10		ベッコウマイマイ	オオヒラベッコウ			DD	要注	○		
11			スジキビ			NT	要注	○		
12			ヒメハリマキビ			NT	要注	○		
13			タカキビ			NT	要注	○		
14			オオウエキビ			DD	II類	○		
15			ナンバンマイマイ	ケハダビロウドマイマイ			NT	II類	○	
16		コシタカコベソマイマイ				NT	要注	○	○	
17		ヤマタカマイマイ				NT	要注	○	○	
18		ニナ	イツマデガイ	イツマデガイ			NT	要注	○	
計		6目	8科	18種	0種	0種	14種	18種	17種	5種

【重要な種の選定基準】

①「文化財保護法」 国特：特別天然記念物、国天：天然記念物、「文化財保護条例」 県天、市天、町天：天然記念物

②「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」及び同施行令

国内：国内希少野生動植物種、国際：国際希少野生動植物種、特一：特定第一種国内希少野生動植物種、

特二：特定第二種国内希少野生動植物種、緊急：緊急指定種

③「環境省レッドリスト2020」（環境省）

EX：絶滅、EW：野生絶滅、CR+EN：絶滅危惧I類（CR：絶滅危惧IA類、EN：絶滅危惧IB類）、VU：絶滅危惧II類、

NT：準絶滅危惧、DD：情報不足、LP：絶滅のおそれのある地域個体群

④「改訂版 福井県の絶滅のおそれのある野生動植物 2016」（平成28年3月 福井県）

絶滅：県域絶滅、I類：県域絶滅危惧I類、II類：県域絶滅危惧II類、準絶：県域準絶滅危惧、要注：要注目

地域：絶滅のおそれのある地域個体群

注1：科及び種の順番は、「河川水辺の国勢調査生物種リスト」（令和元年 国土交通省）に従った。

注2：公表による悪影響が懸念される種については未記載となっている。

注3：過去に記録があるが絶滅したと考えられる市町。

(3) 重要な種の分布及びその生息・生育状況、注目すべき生息地及び重要な群落の分布状況

「福井県のすぐれた自然データベース（植生、動物編）」（福井県ホームページ）によると、対象事業実施区域及びその周囲に設定されたメッシュ（約2km四方）で確認されたすぐれた自然（動植物）は、表 4.1-46及び図 4.1-21に示すとおり、九頭竜川流域に「九頭竜川中流域の付着藻群落」、「九頭竜川のカマキリ（アラレガコ）」、「九頭竜川中～下流域河川敷（昆虫類）」、「九頭竜川中流域（鳥獣の重要な生息地）」が、足羽川流域に「足羽川中流域（鳥獣の重要な生息地）」が分布している。また、ホンサナエ、フクイアナバチ、ダイミョウセセリ、キュビギングチ、マツカサガイの生息地が分布している。

対象事業実施区域が位置するメッシュ（No.474）では、全国レベルで重要、または県レベルで特に重要な希少種として、福井市河水町東山でホンサナエ、松岡町（現永平寺町）西野中でフクイアナバチが確認されている。また、注目すべき生息地及び重要な群落は確認されていない。

表 4.1-46 すぐれた自然一覧

メッシュ 番号 ^{注2}	名 称	分 類 1	分 類 2	選定理由	区分 ^{注1}	位 置
550	セアカオサムシ	昆虫類	コウチュウ目オサムシ科	希少種	A	福井市:舟橋
551	カラトイスカバチ	昆虫類	ハチ目アリマキバチ科	希少種	A	福井市:町屋町、開発町
552	タガメ	昆虫類	カメムシ目コオイムシ科	希少種	A	福井市:勝見
515	足羽川中流域	鳥獣の重要な生息地	—	渡り鳥の渡来地または中継地、猛禽類の多様な地域	B	福井市
472	九頭竜川中流域の付着藻群落	付着藻群落	—	生物的多様性(種類)を保持している生育地	B	松岡町(現永平寺町):志比境
	九頭竜川のカマキリ(アラレガコ)	淡水魚類	カサゴ目カジカ科	個体レベルで貴重な種の生息地	A	福井市:九頭竜川中流域
	アオモンギンセダカモクメ	昆虫類	チョウ目ヤガ科	希少種	B	松岡町(現永平寺町):下合月九頭竜川河川敷
	九頭竜川中～下流域河川敷	昆虫類	—	生物学的な多様性(種数)を保持している自然	A	福井市、松岡町(現永平寺町)
	九頭竜川中流域	鳥獣の重要な生息地	—	渡り鳥の渡来地または中継地、猛禽類の多様な地域	B	福井市、松岡町(現永平寺町)
474	ホンサナエ	昆虫類	トンボ目サナエトンボ科	希少種	A	福井市:河水町東山
	フクイアナバチ	昆虫類	ハチ目アナバチ科	希少種	A	松岡町(現永平寺町):西野中
475	ホンサナエ	昆虫類	トンボ目サナエトンボ科	希少種	A	福井市:河水町東山
	ダイミョウセセリ	昆虫類	チョウ目セセリチョウ科	分布限界種	B	福井市:宮地
476	足羽川中流域	鳥獣の重要な生息地	—	渡り鳥の渡来地または中継地、猛禽類の多様な地域	B	福井市
436	九頭竜川中流域の付着藻群落	付着藻群落	—	生物的多様性(種類)を保持している生育地	B	永平寺町:下浄法寺
	九頭竜川のカマキリ(アラレガコ)	淡水魚類	カサゴ目カジカ科	個体レベルで貴重な種の生息地	A	福井市:九頭竜川中流域
	フジジガバチ	昆虫類	ハチ目アナバチ科	希少種	A	松岡町(現永平寺町):松岡公園
	九頭竜川中～下流域河川敷	昆虫類	—	生物学的な多様性(種数)を保持している自然	A	松岡町(現永平寺町)
437	マツカサガイ	陸産・淡水産貝類	イシガイ目イシガイ科	生態的に貴重な種	A	永平寺町:諏訪間
439	キュビギングチ	昆虫類	ハチ目ギングチバチ科	希少種	A	松岡町(現永平寺町):吉野

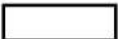
注1: 区分 A: 全国レベルで重要、または県レベルで特に重要なもの
B: 県レベルで重要なもの

注2: メッシュ番号は、図 4.1-21のメッシュ番号に対応する。




出典: 「福井県のすぐれた自然データベース」(福井県ホームページ)



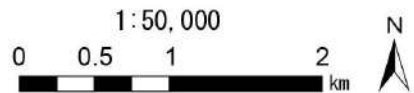
凡例

 対象事業実施区域

 市町界

 メッシュ番号
 メッシュ内で確認されたすぐれた自然
 2kmメッシュ

この地図は国土地理院発行の1:25,000地形図「越前森田」「丸岡」「福井」「永平寺」を使用し、1:50,000の縮尺に編集したものである。



出典：「福井県のすぐれた自然データベース」（福井県ホームページ）

図 4.1-21 すぐれた自然位置図

4.1.7 景観の状況

(1) 眺望点の状況

対象事業実施区域及びその周囲における主要な眺望点は、表 4.1-47及び図 4.1-22に示すとおりである。

最寄りの眺望点は東山公園展望台で対象事業実施区域から南側約600mの位置に存在する。

表 4.1-47 主要な眺望点の概要

番号 ^注	名称	概要	出典
A	東山公園展望台	東山公園の展望台には車で行ける。福井市全域を見渡せる。	1
B	二本松山古墳	国指定の史跡。古墳の頂上から九頭竜川が見え、天気の良い日には日本海を望める。	2
C	手繰ヶ城山古墳	北陸で2番目の大きさの古墳である。国指定の史跡。 古墳の頂上からは福井平野、坂井平野が一望できる。	2
D	足羽山公園 (自然史博物館 本館2F白山テラス)	晴れた日には遠くの白山山系が見渡せるほか、春には足羽川沿いの美しい桜並木を上から見下ろすこともできる。福井市内で最も眺めの良いスポットとして知られ、足羽山の豊かな自然の中、鳥のさえずりや虫の鳴き声に耳を澄ませながら、迫力満点の眺めを堪能できる。	3

注：表中の番号は、図 4.1-22のアルファベット（大文字）と対応する。

出典1：「都市地図 福井県 1 福井市」(昭文社)

出典2：「福井の文化財」(福井県ホームページ)

出典3：「足羽山へ行こう」(福井市ホームページ)

(2) 景観資源の状況

対象事業実施区域及びその周囲における主要な景観資源は、表 4.1-48及び図 4.1-22に示すとおりである。

また、「福井市景観基本計画 四季彩織りなす風景都市～住みたくなる心地よい景観をめざして～」(福井市ホームページ) にあげられている景観資源は、表 4.1-49及び図 4.1-22に示すとおりである。

対象事業実施区域の南側約600mに東山公園が分布している。

表 4.1-48 主要な景観資源の概要

番号 ^注	名称	種別	概要	出典
1	鳴滝	滝	足羽川（あすわがわ）支流の谷にかかる滝。 滝のそばには不動明王が祀られている。	1
2	九頭竜川	河川	延長116km、雄大な清流と鮎つりののどかな風景が見られる九頭竜川の中流域は、古来より福井の穀倉地帯を支える利水の要衝となっている。	2
3	永平寺口駅舎	建築物	永平寺の玄関口であるえちぜん鉄道の永平寺口駅は大正3年建設と古く、レトロな外観を有している。現在でも利用されているこの駅舎は、永平寺への観光客でにぎわった往時をしのばせる貴重な建築物である。	2
4	第3足羽川橋梁	鉄道橋	大きく蛇行する足羽川に、何度も鉄橋で川を渡っていく越美北線。一乗谷駅から美山駅間は7つの鉄道橋があり、杉の山林や足羽川の流れに調和した美しい景観となっている。	2
5	真杉家のタラヨウ	樹木	県指定の天然記念物。樹齢1000年。JR越美北線越前高田駅の下り左前方約30mにあり、そこから樹幹が一望できる。本樹は真杉家の旧屋敷にあり、そこを覆うように太い枝を広げている。	3
6	お館の椿	樹木	永平寺町指定の天然記念物。樹齢350年。かつて松岡町には、親藩福井藩の支藩・松岡藩（5万石）が設置され、藩主の館や侍屋敷が建てられていた。お館の椿は、館の西門の庭に植えられていたと伝えられている。	3

注：表中の番号は、図 4.1-22の番号と対応する。

出典1：「第3回自然環境保全基礎調査 福井県自然環境情報図」（平成元年 環境庁）

出典2：「福井ふるさと百景」（福井県ホームページ）

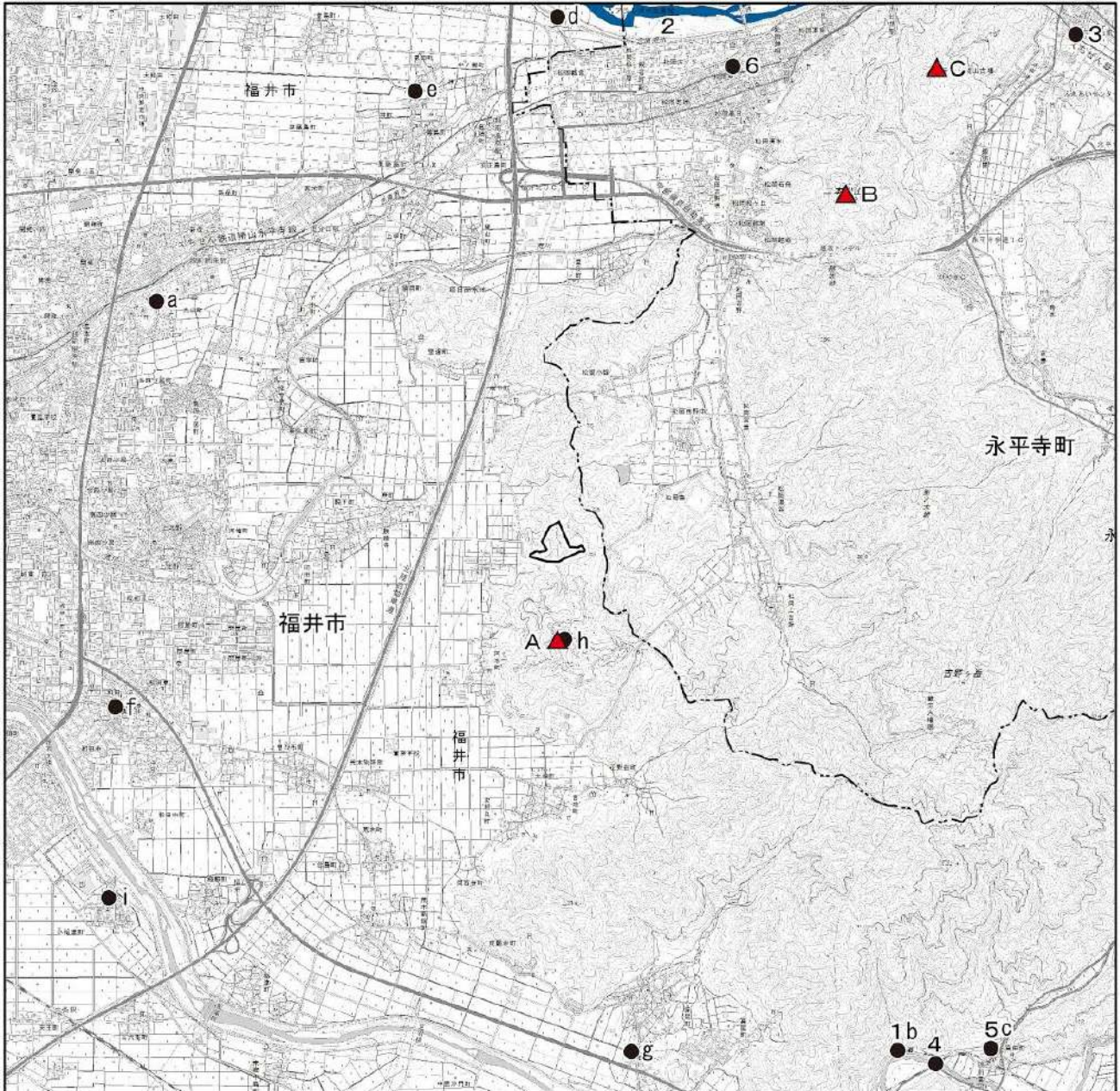
出典3：「ふくいの名木・名花」（福井県ホームページ）

表 4.1-49 福井市景観基本計画による景観資源

項目	番号 ^注	名称
自然・風土等	a	丸山
	b	鳴滝
	c	真杉家のタラヨウ
歴史・文化・風物等	d	元覚堤
	e	東超勝寺・西超勝寺
	f	和田八幡宮神橋
	g	篠尾廃寺跡塔心礎
公共空間・建築物等	h	東山公園
	i	県立図書館

注：表中の番号は、図 4.1-22のアルファベット（小文字）と対応する。

出典：「福井市景観基本計画 四季彩織りなす風景都市～住みたくなる心地よい景観をめざして～」（福井市ホームページ）



凡例

- 対象事業実施区域
- 市町界
- ▲ 主要な眺望点
- 主要な景観資源



- 出典1: 「都市地図 福井県 1 福井市」(昭文社)
- 出典2: 「福井の文化財」(福井県ホームページ)
- 出典3: 「足羽山へ行こう」(福井市ホームページ)
- 出典4: 「第3回自然環境保全基礎調査 福井県自然環境情報図」(平成元年 環境庁)
- 出典5: 「福井ふるさと百景」(福井県ホームページ)
- 出典6: 「ふくいの名木・名花」(福井県ホームページ)
- 出典7: 「福井市景観基本計画 四季彩織りなす風景都市～住みたくなる心地よい景観をめざして～」(福井市ホームページ)

この地図は国土地理院発行の1:25,000地形図「越前森田」「丸岡」「福井」「永平寺」を使用し、1:50,000の縮尺に編集したものである。

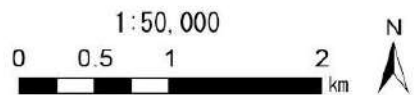


図 4.1-22 眺望点及び景観資源分布図

4.1.8 自然との触れ合いの活動の場の状況

対象事業実施区域及びその周囲における自然との触れ合いの活動の場は、表 4.1-50及び図 4.1-23に示すとおりである。

東山公園が対象事業実施区域に隣接して存在する。

表 4.1-50 自然との触れ合いの活動の場の概要

番号 ^{注2}	名称	種別	概要	出典
1	九頭竜川	河川	延長116km、雄大な清流と鮎つりののどかな風景が見られる九頭竜川の中流域は、古来より福井の穀倉地帯を支える利水の要衝となっている。	1
2	東山公園	公園	福井市東部の山に道路を整備して頂上付近を小さな公園状に整備してある。展望台と芝生広場があり福井市街が一望できる。ふもとは福井市東山健康運動公園がある。	2
3	松岡公園	公園	松岡地区一円を見下ろす小高い丘の上にある公園。約500本の桜の木があり、桜の名所でもある。夜にはぼんぼりが灯り、夜桜見学もできる。	3
4	手繰ヶ城山古墳	古墳	手繰ヶ城山古墳は、北陸で2番目の大きさである。国指定の史跡。古墳の頂上からは福井平野、坂井平野が一望できる。	4
5	二本松山古墳コース (松岡古墳群)	散策コース	松岡公園にある春日山古墳を起点とした散策コース ^{注1} ①春日山古墳－②乃木山古墳－③三峰山城跡－④石舟山古墳－⑤鳥越山古墳－⑥二本松山古墳を巡ることができる。	4

注1：二本松山古墳コース（松岡古墳群）の概要にある丸付き番号は、図 4.1-23の番号と対応する。

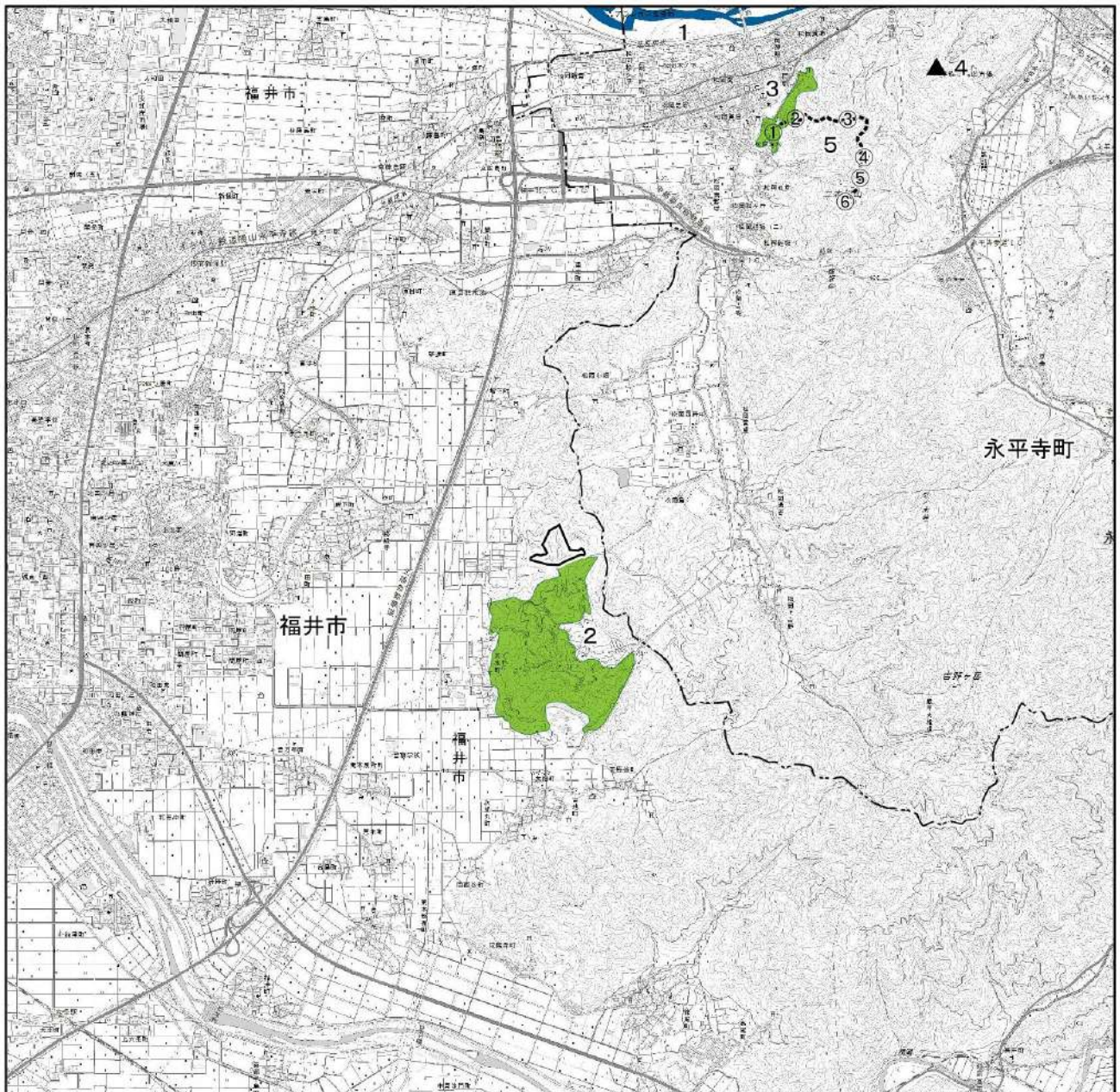
注2：番号は、図4.1-23の番号と対応する。

出典1：「福井ふるさと百景」（福井県ホームページ）

出典2：「都市地図 福井県 1 福井市」（昭文社）

出典3：「永平寺町ガイドマップ」（永平寺町ホームページ）

出典4：「古代の宝箱 松岡古墳群」（まつおか散策マップホームページ）



凡 例

- 対象事業実施区域
- 市町界
- ~ 河 川
- 公 園
- ▲ 古 墳
- 散策コース

この地図は国土地理院発行の1:25,000地形図「越前森田」「丸岡」「福井」「永平寺」を使用し、1:50,000の縮尺に編集したものである。

- 出典1:「福井ふるさと百景」(福井県ホームページ)
- 出典2:「都市地図 福井県 1 福井市」(昭文社)
- 出典3:「永平寺町ガイドマップ」(永平寺町ホームページ)
- 出典4:「古代の宝箱 松岡古墳群」(まつおか散策マップホームページ)

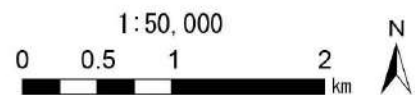


図 4.1-23 自然との触れ合いの活動の場の分布図